

研究成果報告書（第 2 分冊）

2023 年度 子ども（小学 5 年生・中学 2 年生）向け アンケート調査 成果報告書

令和 6（2024）年 2 月 29 日

一般社団法人 飛騨高山大学連携センター・目白大学

目次

1	はじめに	1
2	研究目的	1
3	調査方法	2
3.1	研究デザイン	2
3.2	データ収集方法	2
3.2.1	調査期間	2
3.2.2	対象	2
3.2.3	依頼方法	2
3.2.4	調査内容	2
3.3	分析方法	2
3.4	信頼性と妥当性の確保	2
3.5	倫理的配慮	3
4	調査結果	4
4.1	回答状況	4
4.2	回答者の属性	4
4.2.1	学年・性別の内訳・・・問2	4
4.2.2	居住地域・・・問1	4
4.3	学校での生活について	5
4.3.1	学校生活での楽しみ・・・問4	5
4.3.2	学校の授業内容の理解・・・問5	7
4.3.3	友達との関係・・・問17	8
4.3.4	学校での経験についての子どもの経験・意識・・・問24ア～ケ	10
4.3.5	小括	10
4.4	家庭や生活について	12
4.4.1	生活リズム・・・問6、問7	12

4.4.2	食生活・・・問10、問11	12
4.4.3	学校外での勉強時間・・・問8	13
4.4.4	スマホ・ゲームの時間・・・問9	14
4.4.5	家族との会話について・・・問12、問13、問14、問15	14
4.4.6	家庭での手伝いについて・・・問16	19
4.4.7	与えられている所有物・・・問3	19
4.4.8	習い事の状況・・・問19	20
4.4.9	家庭や生活についての子どもの経験・意識・・・問24エ〜ケ.....	21
4.4.10	小括.....	23
4.5	高山市と自分のかかわりについて	25
4.5.1	地域行事への参加について・・・問18	25
4.5.2	高山市への愛着・・・問31、問32、問33	25
4.5.3	小括.....	29
4.6	子どもの希望や悩みについて	30
4.6.1	嫌なことや困ったことがあるときの相談先・・・問25	30
4.6.2	安心して過ごすことのできる場所・・・問21、問22	31
4.6.3	希望や悩み・・・問23	34
4.6.4	嬉しいと感じるとき・・・問26	35
4.6.5	嬉しいと感じるときを増やすために・・・問27	39
4.6.6	小括.....	41
4.7	子どものキャリア意識について.....	44
4.7.1	進学希望・・・問28	44
4.7.2	将来の夢の有無と内容・・・問29	44
4.7.3	将来の夢・・・問30	44
4.7.4	地域と仕事への認識・・・問20	48
4.7.5	定住・Uターン希望・・・問34	49
4.7.6	小括.....	50
5	総括.....	52

6 引用・参考文献.....	53
----------------	----

7 参考資料（別紙）

7.1 第5回 飛騨高山学会 峯村・西山（2023）抄録

7.2 第5回 飛騨高山学会 峯村・西山（2023）プレゼンテーション資料

8 集計データ（別紙）

8.1 発注データ_高山 2024_小5中2 アンケート調査元データ

8.2 納品データ_高山 2024_小5中2 アンケート調査

1 はじめに

2023 年 4 月、「こども基本法」が施行され、「こどもまんなか社会」を目指した施策の推進が進められている。こども基本法の基本理念には、「年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できる」、「すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること」という内容が明記された。これは子どもの権利条約以後、日本も含め世界で進められてきた教育福祉政策の理念を再度明確化したものでもあるが、一層子どもの意見が尊重され、また子どもの意見をもとにした政策推進が今日まさに求められているということでもある。

一方で、教育政策の推進にあたっては、郷土教育も更に求められるようになってきている。昨今、地方部の人口流出と都市部流入は人口動態上の課題になっており、I ターンやU ターン施策が政策として積極的に推進されている。出身地に愛着を持っている人、出身地を離れる前に地元企業をよく知っていた人ほど U ターン希望が強い（労働政策研究・研修機構，2016）こともわかっており、郷土教育では、地域の歴史、産業の一層の理解や、郷土愛の形成も地域にとって大切な意味も持つようになっている。

高山市では、2024 年度に「（仮称）高山市子どもにやさしいまちづくり計画」の改定を予定している。本計画改定にあたっては、「こどもまんなか社会」を目指した施策の推進に向け、上記で示した通り「こどもの意見」を聴き、また尊重した計画策定が求められる。2018 年度の一般財団法人飛騨高山大学連携センター受託研究「高山市における子育て環境に関する現状と課題調査」において、既に当時の小学校 5 年生、中学校 2 年生に対して実態調査を行っているところであるが、最新の状況を把握し、新たな政策課題に対応していくために、質問項目も再検討したうえで調査を行うこととした。具体的には小学 5 年、中学 2 年の子どもを対象として、現状と課題を明らかにし、また子どもの多様な意見を聴くことを目的に、アンケートによる実態調査を実施した。

2 研究目的

高山市の施策立案の基礎的資料とするために、小学 5 年、中学 2 年の子どもを対象とした質問紙調査を実施し、子どもを取り巻く現状と課題を明らかにし、また子どもの多様な意見を聴くことを目的とする。

3 調査方法

3.1 研究デザイン

質問紙調査法を用いた質的記述的研究である。

3.2 データ収集方法

Survey Monkey（Survey Monkey 社製）を使用した Web 調査である。

一連の方法について以下に示す。

3.2.1 調査期間

2023 年 10 月中に実施した。

3.2.2 対象

2023 年 10 月に高山市内の小学校、中学校に在籍する小学 5 年、中学 2 年の子ども全員を対象とした。

3.2.3 依頼方法

依頼は、学校長あてに行った。各学校において、QR コードを付した調査協力の依頼文を、学級活動等の時間に担任の教諭から子どもへ配布をし、子どもが学習用タブレットで回答を行った。なお、各学校長宛の依頼文において、個人の特定は行っておらず、全員の回答完了を求めるものではない旨明記している。QR コードを付した調査協力の依頼文を学級活動等の時間に配布をする際、欠席であった子どもに追加で回答を求めるといったことは行っていないため、回答者に不登校等長期欠席に該当する子どもが含まれていない可能性がある点、留意が必要である。

3.2.4 調査内容

調査項目は、居住地、学校での生活のこと、家庭や生活のこと、高山市との関わりや愛着、希望や悩みに関する意識、キャリア意識等で構成され、計 34 問であった。

3.3 分析方法

分析方法は単純集計とクロス集計、自由記述は KH Coder ver. 3.0 を用いて、単語頻度分析および共起ネットワーク分析等を行った。

3.4 信頼性と妥当性の確保

調査内容および設問について、市担当課職員および飛騨高山大学連携センター担当者が原案を作成後、目白大学研究者との三者の協議において、調査項目および設問に関する信頼

性と妥当性を確保した。

分析については、目白大学研究者間で検討すると共に、第5回飛騨高山学会にて中間報告を行い、会場参加者や市担当課職員からの質問や意見を反映することで、信頼性と妥当性の確保に努めた。

3.5 倫理的配慮

倫理的配慮として、研究の主旨、目的および方法、無記名調査であること、協力は自由であり、答えたくない質問は飛ばしてもよいこと、先生や保護者は1件1件の回答を見ないこと、成績とは無関係であること、回答にかかる時間、集計をした内容だけが公開されることなどを依頼文に明記した。また各学校長宛の依頼文でも、個人の特定は行っておらず、全員の回答完了を求めるものではない旨明記した。

4 調査結果

4.1 回答状況

2023 年 10 月末現在での在籍児童生徒数は、高山市小学 5 年生が 715 人、中学 2 年生が 775 人である。

本調査の回答件数は、小学 5 年生から 676 件、中学 2 年生から 756 件であった。回答率は、小学 5 年生で 94.5%、中学 2 年生で 97.5%であった。

4.2 回答者の属性

4.2.1 学年・性別の内訳・・・問 2

男女比は、表 1 に示す通り、男性 50.0%、女性 47.4%、答えたくない 2.5%であった。

表 1 回答者の学年別・性別の内訳

	合計	男	女	答えたくない
全体	1427	50.0	47.4	2.5
小 5	679	51.0	47.1	1.9
中 2	748	49.2	47.7	3.1

4.2.2 居住地域・・・問 1

表 2 に居住地域を示す。高山地域が全体で 72.3%、小学 5 年生は 70.6%、中学 2 年生は 73.8%という内訳であった。

表 2 回答者の居住地域の内訳

	全体	小 5	中 2
合計	1432	676	756
高山地域	72.3	70.6	73.8
丹生川地域	5.2	5.3	5.0
清見地域	2.4	1.8	2.9
荘川地域	1.0	1.5	0.5
一之宮地域	2.5	2.7	2.4
久々野地域	3.4	3.7	3.2
朝日地域	1.4	1.0	1.7
高根地区	0.0	0.0	0.0
国府地域	8.8	10.2	7.5
上宝地域	1.5	1.5	1.6
奥飛騨温泉郷地域	1.5	1.8	1.3
無回答			

4.3 学校での生活について

4.3.1 学校生活での楽しみ・・・問4

ここでは、「あなたの学校生活についてお聞きします。次のア～ケについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表3～表11に示す。いずれの結果についても、「とても楽しみ」は小学5年生の方が多く、中学2年生の方が「楽しみではない」の割合が多くなっている。

「とても楽しみ」の割合をまとめたものを、表12として示す。小学5年生、中学2年生ともに「オ 友達に会うこと」、「キ 休み時間」、「ケ 運動会、修学旅行など」は、概ね6割以上が「とても楽しみ」としている。一方、小学校で割合が高く、中学校で割合が低くなるのは、「イ 体育、家庭科、音楽、図工、道徳などの授業」と、「カ クラブ活動・部活動」についてであった。

表3 国語・算数・理科・社会・英語の授業について

	合計	ア 国語、算数、理科、社会、英語の授業					
		とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない	分からない・答えたくない	無回答
全体	1397	13.6	29.2	32.9	21.8	2.5	
小5	665	19.4	32.3	31.3	14.0	3.0	
中2	732	8.3	26.4	34.4	28.8	2.0	

表4 体育・家庭科・音楽・図工・道徳などの授業について

	合計	イ 体育、家庭科、音楽、図工、道徳などの授業					
		とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない	分からない・答えたくない	無回答
全体	1395	38.6	33.7	17.2	8.9	1.6	
小5	665	59.1	28.1	9.3	2.4	1.1	
中2	730	20.0	38.8	24.4	14.8	2.1	

表5 総合的な学習の時間の授業について

	合計	ウ 総合的な学習の時間の授業					
		とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない	分からない・答えたくない	無回答
全体	1385	27.9	31.4	23.8	14.6	2.3	
小5	659	42.0	31.6	18.1	6.8	1.5	
中2	726	15.2	31.3	28.9	21.6	3.0	

表6 先生に会うことについて

	合計	エ 先生に会うこと					
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	無回答
全体	1388	26.2	30.8	22.6	14.1	6.3	
小5	662	36.7	31.0	17.4	8.6	6.3	
中2	726	16.7	30.7	27.3	19.1	6.2	

表7 友達に会うことについて

	合計	オ 友達に会うこと					
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	無回答
全体	1390	73.7	17.6	6.0	1.7	1.1	
小5	658	80.5	13.8	3.6	1.1	0.9	
中2	732	67.5	20.9	8.1	2.3	1.2	

表8 クラブ活動・部活動について

	合計	カ クラブ活動・部活動					
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	無回答
全体	1380	52.9	23.3	11.2	7.1	5.4	
小5	658	68.4	20.2	9.0	1.7	0.8	
中2	722	38.8	26.2	13.3	12.0	9.7	

表9 休み時間について

	合計	キ 休み時間					
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	無回答
全体	1389	66.8	20.6	8.8	3.0	0.8	
小5	662	74.6	16.8	7.1	1.2	0.3	
中2	727	59.7	24.1	10.3	4.7	1.2	

表10 給食について

	合計	ク 給食					
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	無回答
全体	1388	49.6	26.9	14.8	7.5	1.2	
小5	661	56.1	25.9	11.6	5.7	0.6	
中2	727	43.7	27.8	17.6	9.1	1.8	

表 11 運動会・修学旅行などについて

	合計	ケ 運動会、修学旅行など					無回答
		とても 楽しみ	楽しみ	少し 楽しみ	楽しみ ではない	分からない・ 答えたくない	
全体	1391	76.3	14.0	5.6	3.4	0.6	
小5	661	84.4	9.7	3.8	1.7	0.5	
中2	730	69.0	17.9	7.3	4.9	0.8	

表 12 表 3～表 11 のうち「とても楽しみ」の割合

	小5 (%)	中2 (%)
ア 国語、算数、理科、 社会、英語の授業	19.4	8.3
イ 体育、家庭科、音楽、 図工、道徳などの授業	59.1	20.0
ウ 総合的な学習の時間の授業	42.0	15.2
エ 先生に会うこと	36.7	16.7
オ 友達に会うこと	80.5	67.5
カ クラブ活動・部活動	68.4	38.8
キ 休み時間	74.6	59.7
ク 給食	56.1	43.7
ケ 運動会、修学旅行など	84.4	69.0

4.3.2 学校の授業内容の理解・・・問5

ここでは、「あなたは、学校の授業の内容が分かりますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表 13 に示す。

小学5年生について、「とてもよく分かる」と「まあまあ分かる」で84.4%、中学2年生について、同じく「とてもよく分かる」と「まあまあ分かる」で75.0%であった。一方で、「たまに分からない」の割合は、小学5年生で8.3%、中学2年生で10.5%、「いつも分からない」の割合も、小学5年生で1.2%、中学2年生で2.5%である。「いつも分からない」の割合は、小学5年生で8人、中学2年生で18人であった。

表 13 学校の授業内容の理解について

	合計	とても よく 分かる	まあまあ 分かる	どちら でもない	たまに 分からない	いつも 分からない
全体	1394	27.8	51.6	9.2	9.5	1.9
小5	663	36.0	48.4	6.0	8.3	1.2
中2	731	20.4	54.6	12.0	10.5	2.5

4.3.3 友達との関係・・・問17

ここでは、「あなたは、友達との関係についてどう思っていますか。次のア～カについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表14～表19に示す。基本的にポジティブな割合が高い傾向にあるが、表18「友達から仲間はずれにされる」、表19「友達とよべるような人はいない」に示す通り、5%前後の子どもが、仲間外れ、疎外感を感じている傾向もあった。

表 14 「友達とたくさん遊べて楽しい」について

	合計	ア 友達とたくさん遊べて楽しい				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1376	81.5	14.1	2.6	1.3	0.4
小5	658	87.2	10.3	1.7	0.5	0.3
中2	718	76.3	17.5	3.5	2.1	0.6

表 15 「友達とはなんでも話せる」について

	合計	イ 友達とは何でも話せる				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1368	53.4	30.8	11.2	3.4	1.2
小5	652	56.7	30.2	9.4	2.8	0.9
中2	716	50.4	31.3	12.8	4.1	1.4

表 16 「友達から好きだと思われる」について

		ウ 友達から好きだと思われる				
	合計	そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1358	36.5	38.1	12.4	3.8	9.2
小5	648	37.5	34.9	13.0	4.3	10.3
中2	710	35.6	41.1	11.8	3.2	8.2

表 17 「友達と比べて自分はちがうと思う」について

		エ 友達と比べて自分はちがうと思う				
	合計	そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1364	24.6	25.8	24.3	16.8	8.5
小5	649	26.3	25.1	18.8	19.1	10.6
中2	715	22.9	26.4	29.4	14.7	6.6

表 18 「友達から仲間はずれにされる」について

		オ 友達から仲間はずれにされる				
	合計	そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1358	4.1	4.5	19.3	65.4	6.8
小5	644	4.7	5.4	15.1	67.9	7.0
中2	714	3.5	3.6	23.1	63.2	6.6

表 19 「友達とよべるような人はいない」について

		カ 友達とよべるような人はいない				
	合計	そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1356	4.9	3.6	10.0	75.7	5.8
小5	642	6.7	3.1	9.7	75.4	5.1
中2	714	3.4	4.1	10.2	75.9	6.4

4.3.4 学校での経験についての子どもの経験・意識・・・問 24ア～ケ

ここでは、「あなたのこれまでの経験を聞かせてください。次のア～ウについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表 20～表 22 に示す。表 20「学校に行きたくないと思った」が「よくあった」割合は、小学5年生で15.2%、中学2年生で22.9%だが、実際に表 21「1 か月以上学校を休んだ」割合は、「よくあった」が小学5年生で1.3%、中学2年生で2.3%であった。

いじめられた経験について、表 22「いじめられた」の通り、3%前後の子どもが「よくあった」と回答がった。

表 20 「学校に行きたくないと思った」について

	合計	ア 学校に行きたくないと思った				
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	分からない・答えたくない
全体	1338	19.3	36.8	22.5	20.3	1.1
小5	631	15.2	34.5	24.4	24.2	1.6
中2	707	22.9	38.8	20.8	16.8	0.7

表 21 「1 か月以上学校を休んだ」について

	合計	イ 1か月以上学校を休んだ(病気の時以外)				
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	分からない・答えたくない
全体	1330	1.8	2.1	4.1	89.7	2.3
小5	628	1.3	3.0	5.3	87.6	2.9
中2	702	2.3	1.3	3.1	91.6	1.7

表 22 「いじめられた」について

	合計	ウ いじめられた				
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	分からない・答えたくない
全体	1322	3.0	8.9	14.4	70.0	3.8
小5	622	2.7	11.1	17.2	64.8	4.2
中2	700	3.1	6.9	11.9	74.7	3.4

4.3.5 小括

学校での楽しみについて、全体的には小学5年生の方が「とても楽しみ」の割合が高く、中学2年生の方がその割合は低くなる。前回調査とは若干項目が異なるため単純な比較はできないが、授業については「とても楽しみ」の割合は同程度であった。「先生に会うこと」

について、前回調査では「とても楽しみ」の割合が小学5年生、中学2年生の順に22.8%、8.8%であったところ、今回調査では36.7%、16.7%となっており、大幅に上昇している。「学校の友達に会うこと」についても、前回調査では「とても楽しみ」の割合が小学5年生、中学2年生の順に71.2%、61.6%であったところ、今回調査では80.5%、67.5%となっており、上昇している。学習面で「楽しみ」と感じる子どもは前回調査と同程度だが、先生や友達と会うことについては「楽しみ」と感じている子どもが増えている。

学校の授業内容の理解について、「いつも分からない」の割合は、前回調査で小学5年生、中学2年生の順に、1.3%、1.5%であり、今回調査では1.2%、2.5%と、割合は低いものの、中学2年生で少し増えた。一方、前回調査で「分からないことは全然ない（よく分かる）」と答えた子どもの割合は、小学5年生、中学2年生の順に、13.9%、6.4%であったところ、今回調査で「とてもよく分かる」と答えた子どもは、36.0%、20.4%と大幅に増加している。調査方法が異なるため単純比較はできないが、授業内容の理解度も向上の傾向が見て取れる。

友達との関係について、前回調査とは問題文が異なるため単純比較ができないが、良好な関係だと感じている割合は全体的に高い傾向にあった。一方「仲間外れにされる」の割合が全体で4.1%、「友達と呼べるような人はいない」の割合が全体で4.9%など、一定割合の子どもは、人間関係で困難を抱えている可能性もある。「学校に行きたくないと思った」については、前回調査では「よくあった」の割合が、小学5年生、中学2年生の順に、16.8%、14.6%であった一方、今回調査では、15.2%、22.9%と、中学2年生でその割合は増加している。前掲を踏まえると、先生や友達に会うのが楽しみだと感じている子どもが増えている一方、逆に学校に行きたくないと思う子どもも増えるという、子どもの多様化の中での二極化が起こっている可能性はある。「いじめられた」については、前回調査で小学5年生、中学2年生の順に「よくあった」の割合は、4.2%、3.7%であり、今回調査では、2.7%、3.1%と減少した。「1か月以上学校を休んだ（病気の時以外）」について、前回調査では、小学5年生、中学2年生の順に、0.4%、0.8%であったが、今回調査では、1.3%、2.3%であった。文部科学省（2023）によれば、不登校児童生徒数は近年増加傾向にあり、その傾向と一致するものだが、不登校の増加傾向は高山市においても同様課題であることが分かる（また、不登校児童生徒は本調査に回答できていない可能性もあり、この割合は本来もっと高い可能性もあり、留意する必要がある）。

4.4 家庭や生活について

4.4.1 生活リズム・・・問6、問7

ここでは「あなたは、平日（学校のある日）、だいたい何時に起きていますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表23に示す。

5時台～7時台に起きるという子どもが90%超であった。小学5年生、中学2年生ともに同様の傾向がみられた。

次に、「あなたは、平日（学校のある日）、だいたい何時に寝ていますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表24に示す。

小学5年生に比して、中学2年生の方が寝る時間は遅くなる傾向にある。特に中学2年生については、0時以降に寝る子どもも11.4%いることがわかる。

表23 平日の起床時間

	合計	午前5時 より前	5時台	6時台	7時台	8時台	9時 より後	決まっ ていない
全体	1389	1.2	8.8	73.6	12.7	0.6	0.4	2.7
小5	663	1.1	7.1	73.5	14.0	0.3	0.2	3.9
中2	726	1.2	10.3	73.7	11.6	1.0	0.6	1.7

表24 平日の就寝時間

	合計	21時 より前	21時台	22時台	23時台	0時台	1時 より後	決まっ ていない
全体	1389	5.2	25.3	39.2	18.6	5.0	1.4	5.3
小5	660	9.7	41.7	36.7	6.8	0.8	0.0	4.4
中2	729	1.1	10.6	41.6	29.4	8.8	2.6	6.0

4.4.2 食生活・・・問10、問11

ここでは「あなたは、朝ごはんをだれといっしょに食べていますか。あてはまる人をすべて選んでください（いくつでも）。」として聞いた結果について述べる。表25に示す。当該設問は複数選択が可能である。

お父さんやお母さんと食べている子どもは、50%超であった。兄弟・姉妹と食べる割合が最も高く、全体で58.2%であった。一方、一人で食べる子どもは、小学5年生で20.3%、中学2年生で28.6%であり、5人に1人～4人に1人は、朝ごはんを一人で食べている状況にある。また、「朝ごはんはあまり食べない」子どもも、小学5年生で1.5%（10人）、中学2年生で5.1%（37人）いることが見て取れる。

次に、「あなたは、夕ごはんをだれといっしょに食べますか。あてはまる人をすべて選んでください（いくつでも）。」として聞いた結果について述べる。表 25 に示す。当該設問は複数選択が可能である。

夕ご飯は「お父さんやお母さん」と食べるという割合が 85%前後であった。「一人で食べる」という子どもは、小学 5 年生で 3.2% (20 人)、中学 2 年生で 7.2% (52 人) であった。「夕ご飯はあまり食べない」という子どもは、小学生で 0.3% (2 人)、中学生で 0.4% (3 人) 該当があった。

表 25 朝ごはんを誰と一緒に食べるかについて

	合計	お父さんやお母さん	兄弟・姉妹	おじいさんやおばあさん	ほかの家族や いっしょに住んでいる人	一人で 食べる	朝ごはんは あまり 食べない
全体	1389	53.3	58.2	9.3	2.5	24.6	3.4
小 5	661	54.0	63.7	10.4	3.0	20.3	1.5
中 2	728	52.7	53.2	8.2	2.1	28.6	5.1

表 26 夕ご飯を誰と一緒に食べるかについて

	合計	お父さんやお母さん	兄弟・姉妹	おじいさんやおばあさん	ほかの家族や いっしょに住んでいる人	一人で 食べる	夕ごはんは あまり 食べない
全体	1374	85.3	69.5	23.1	7.6	5.3	0.4
小 5	651	84.2	70.0	22.7	7.8	3.2	0.3
中 2	723	86.3	69.0	23.5	7.3	7.2	0.4

4.4.3 学校外での勉強時間・・・問 8

ここでは、「あなたは、平日（学校のある日）、学校の授業以外にどれくらい勉強していますか。あてはまるものを 1 つ選んでください（学習塾（じゅく）などでの勉強時間も含む）。」として聞いた結果について述べる。表 27 に示す。

小学 5 年生については、最頻値が「30 分以上 1 時間未満」に頂点のある分布である。一方、中学 2 年生については「1 時間以上 2 時間未満」に頂点の有る分布である。しかし、尖度は小学 5 年生の方が高い。つまり、中学 2 年生の方が、「まったくしない」と、「3 時間以上」の割合がともに、小学 5 年生より高いということである。

これが意味するところは、中学 2 年生の方が、学習時間の 2 極化が起こっている可能性があるということである。全体として、中学 2 年生の方が学習時間は長い、一方で、勉強をしない（あるいは、何らかの社会的背景でしたくてもできない）子どもと、勉強をする子どもが、どちらも割合として増えていることがわかる。

表 27 平日の学校外での学習時間

	合計	まったく しない	30分未満	30分以上、 1時間未満	1時間以上、 2時間未満	2時間以上、 3時間未満	3時間以上
全体	1386	4.9	17.6	38.2	29.2	8.1	1.9
小5	662	3.0	18.6	45.5	24.6	6.6	1.7
中2	724	6.6	16.7	31.6	33.4	9.4	2.2

4.4.4 スマホ・ゲームの時間・・・問9

ここでは「あなたは、平日（学校のある日）、学校の授業以外に、動画を見たり、SNS（インターネットでのつながりの場）をしたり、ゲームをするなど、どれくらいの時間、スマートフォンやパソコン、タブレット、ゲーム機などをさわっていますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について述べる。表28に示す。

小学5年生、中学2年生ともに、頂点は「1時間以上、2時間未満」にある。一方で、小学5年生は次いで「30分以上、1時間未満」であるのに対し、中学2年生は「2時間以上、3時間未満」、「3時間以上」が次点に来る。中学2年生の中で、5人に1人以上は、1日3時間以上スマートフォンやパソコン、タブレット、ゲーム機などを利用していることがわかる。

表 28 平日のスマートフォンやパソコン、タブレット、ゲーム機の利用時間

	合計	まったく しない	30分未満	30分以上、 1時間未満	1時間以上、 2時間未満	2時間以上、 3時間未満	3時間以上
全体	1381	5.0	6.5	18.0	29.5	21.6	19.3
小5	660	7.4	9.5	23.6	27.6	16.7	15.2
中2	721	2.8	3.7	12.9	31.3	26.1	23.2

4.4.5 家族との会話について・・・問12、問13、問14、問15

ここでは、家族との会話について見る。

まず、表29に「あなたは今、お父さんといっしょにいらっしゃいますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について示す。表30に同じく「あなたは今、お母さんといっしょにいらっしゃいますか。あてはまるものを1つ選んでください。」として聞いた結果について示す。

表 29 父親との生活状況

	合計	暮らしている	暮らしていない
全体	1379	86.6	13.4
小5	655	86.4	13.6
中2	724	86.7	13.3

表 30 母親との生活状況

	合計	暮らしている	暮らしていない
全体	1353	97.0	3.0
小5	654	96.9	3.1
中2	699	97.0	3.0

表 29、表 30 から、ひとり親家庭または単身赴任等の理由により、それぞれ父親と暮らしていない子どもが全体で 13.4%、母親と暮らしていない子どもが 3.0%いることがわかる。

以下、一緒に暮らしている子どもに限って、「父親との会話」、「母親との会話」について見る。

<父親との会話>について

表 31～表 35 に、「あなたは、次のようなことについて、お父さんとどのくらい話をしますか。次のア～オについて、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください」として聞いた、父親との家庭での会話について示す。なお、結果については<母親との会話>の結果の表 36～表 40 のあと、グラフを示した上で述べる。

表 31 父親との家庭での会話「学校でのできごと」について

	合計	ア 学校でのできごと			
		よく話を する	ときどき 話を する	あまり 話を しない	まったく 話を しない
全体	1169	39.7	36.6	16.0	7.7
小5	549	42.8	40.1	12.4	4.7
中2	620	36.9	33.5	19.2	10.3

表 32 父親との家庭での会話「勉強や成績のこと」について

	合計	イ 勉強や成績のこと			
		よく話を する	ときどき 話を する	あまり 話を しない	まったく 話を しない
全体	1166	32.6	38.2	21.5	7.7
小5	544	32.7	39.3	21.3	6.6
中2	622	32.5	37.1	21.7	8.7

表 33 父親との家庭での会話「将来になりたいもの」について

	合計	ウ 将来(しょうらい)になりたいもの			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1158	23.1	29.4	29.9	17.6
小 5	543	25.2	29.3	30.0	15.5
中 2	615	21.3	29.4	29.8	19.5

表 34 父親との家庭での会話「友達のこと」について

	合計	エ 友達のこと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1166	39.6	33.5	17.8	9.1
小 5	552	47.3	36.1	11.6	5.1
中 2	614	32.7	31.3	23.3	12.7

表 35 父親との家庭での会話「好きなことや遊びのこと」について

	合計	オ好きなことや遊びのこと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1178	47.1	30.5	13.8	8.6
小 5	557	52.2	29.4	11.7	6.6
中 2	621	42.5	31.4	15.8	10.3

＜母親との会話＞について

表 36～表 40 に、「あなたは、次のようなことについて、お母さんとどのくらい話をしますか。次のア～オについて、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください」として聞いた、母親との家庭での会話について示す。なお、前述の通り、結果については表 36～表 40 のあと、グラフを示した上で述べる。

表 36 母親との家庭での会話「学校でのできごと」について

	合計	ア 学校でのできごと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1296	67.4	25.6	4.8	2.2
小 5	622	70.3	25.2	2.6	1.9
中 2	674	64.8	26.0	6.8	2.4

表 37 母親との家庭での会話「勉強や成績のこと」について

	合計	イ 勉強や成績のこと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1290	50.9	32.3	13.6	3.3
小 5	617	50.9	32.4	13.8	2.9
中 2	673	50.8	32.2	13.4	3.6

表 38 母親との家庭での会話「将来になりたいもの」について

	合計	ウ 将来(しょうらい)になりたいもの			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1283	35.1	32.1	21.5	11.3
小 5	615	35.3	32.8	19.5	12.4
中 2	668	34.9	31.4	23.4	10.3

表 39 母親との家庭での会話「友達のこと」について

	合計	エ 友達のこと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1291	64.6	26.8	6.6	2.0
小 5	621	68.6	25.6	5.0	0.8
中 2	670	60.9	27.9	8.1	3.1

表 40 母親との家庭での会話「好きなことや遊びのこと」について

	合計	オ 好きなことや遊びのこと			
		よく 話をする	ときどき 話をする	あまり 話をしない	まったく 話をしない
全体	1296	57.6	27.6	10.0	4.8
小 5	624	61.7	25.8	8.5	4.0
中 2	672	53.7	29.3	11.5	5.5

表 31～表 40 のうち、小学 5 年生の家庭での親との会話を図 1、中学 2 年生の親との会話を図 2 に示す。図の通り、全体的に母親と「よく話をする」割合が高いことがわかる。また、中学 2 年生の方が、全体的に「よく話をする」割合が減ることがわかる。

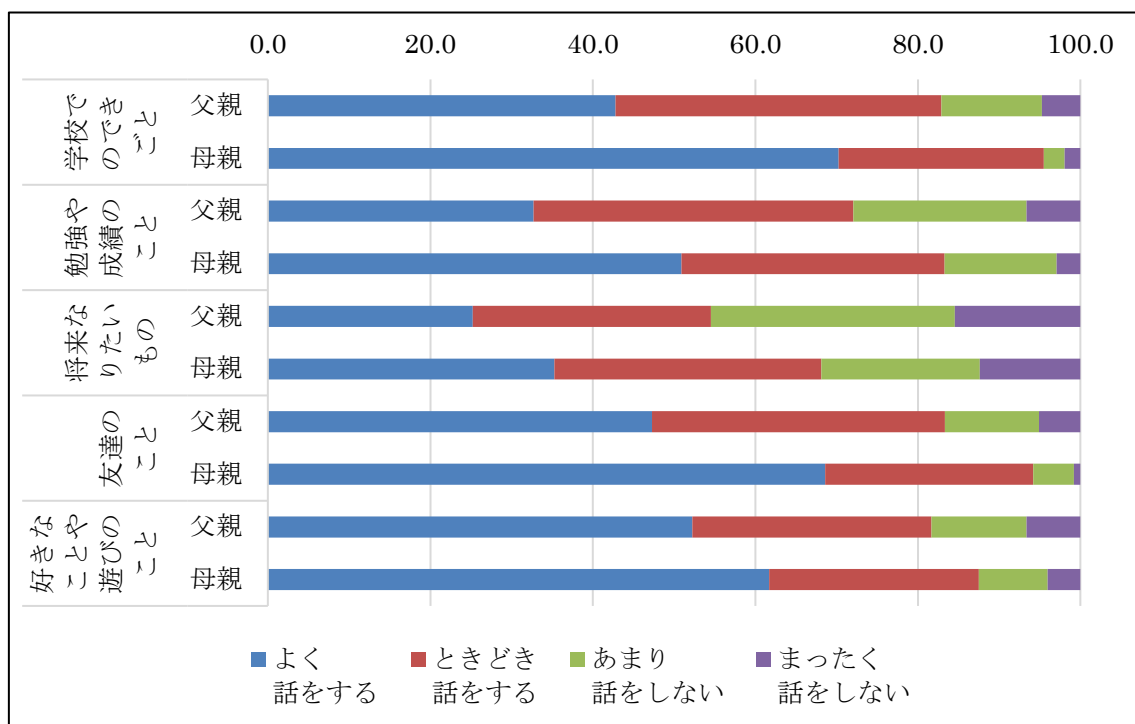


図1 小学5年生の家庭での会話

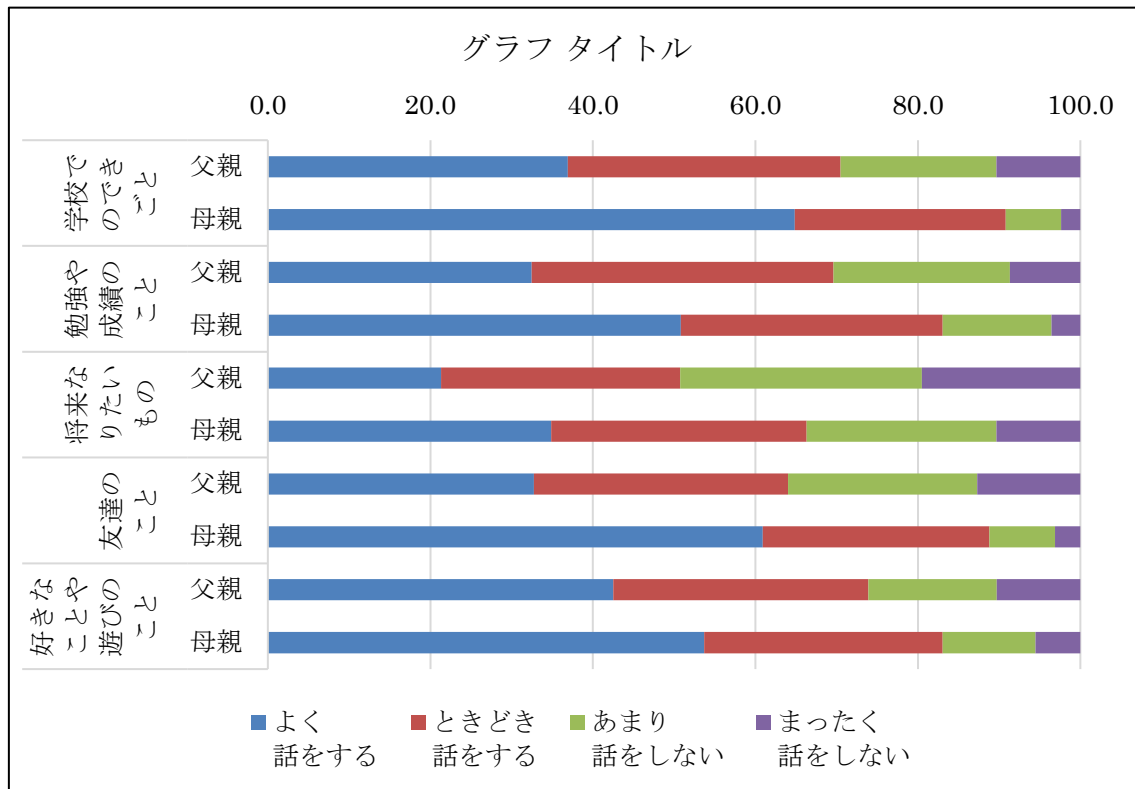


図2 中学2年生の家庭での会話

4.4.6 家庭でのお手伝いについて・・・問16

表41に、「あなたは、家で自分以外のこと（お手伝い）をどのくらいしていますか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について示す。「だいたい毎日している」という子どもが、全体で32.6%、すなわち3人に1人程度が、家でお手伝いをしていることがわかる。

表41 家庭でのお手伝いの頻度について

	合計					
		だいたい毎日している	2～3日に1回はしている	たまにはしている	まったくしていない	分からない・答えたくない
全体	1377	32.6	21.0	39.7	5.3	1.4
小5	657	32.7	21.3	40.9	3.5	1.5
中2	720	32.5	20.7	38.6	6.9	1.3

4.4.7 与えられている所有物・・・問3

表42に「あなたは、次のア～ケのうち自分で使うことのできるものがありますか。ある場合は「ある」を、ない場合でほしいものであれば「ない（ほしい）」、ない場合でほしくないものであれば「ない（ほしくない）」のうち、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について示す。

表42 与えられている所有物等について

	小5			中2		
	ある	ない		ある	ない	
		欲しい	欲しくない		欲しい	欲しくない
ア 子ども部屋 (ひとりや兄弟・姉妹と使う部屋)	67.3	24.5	8.3	86.7	8.5	4.7
イ 勉強するためのつぐえ	80.8	13.8	5.4	88.5	5.7	5.8
ウ 本(教科書やマンガ以外)	83.5	6.6	9.9	87.9	2.7	9.4
エ 文ぼう具	96.4	2.1	1.6	98.3	0.4	1.3
オ スポーツ用品 (野球のグローブや	76.5	6.2	17.3	82.3	1.4	16.3
カ お小遣い(おこづかい) [定期的に決まった額で貰える]	52.4	33.5	14.1	54.3	31.0	14.7
キ ゲーム機	88.9	6.6	4.5	88.0	4.3	7.8
ク インターネットにつながる パソコン、タブレット	60.3	23.0	16.7	76.8	13.7	9.5
ケ スマートフォン、けいたい電話	42.5	42.2	15.3	74.5	21.4	4.1

スマートフォン・携帯電話の所有率は、小学5年生で42.5%、中学2年生で74.5%であり、総務省が実施している全国調査の平均値より低い傾向にある。ただし、ゲーム機、インターネットにつながるパソコン、タブレット等の所有率は高い。

お小遣いについては、小学5年生、中学2年生ともに50%強の子どもがもらっている。

4.4.8 習い事の状況・・・問19

ここでは、「あなたは、学習塾（じゅく）や習い事、スポーツクラブ等へ通っていますか。次のア～ウについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について示す。表43～45に結果を示す。

まず、表43の塾について、「通っている子ども」は、小学5年生で37.0%、中学2年生で47.4%であった。通っている子どもの、通う頻度は、週に1～2回が最も多い。

次に表44のスポーツクラブ・スポーツの習い事についてである。「通っている子ども」は、小学5年生で68.0%、中学2年生で48.9%であり、塾よりも多くの子どもがスポーツクラブ、スポーツの習い事をしていることがわかる。通っている子どもの、通う頻度は、週3日以上が最も多い（笹川スポーツ財団の2017年調査とほぼ同じ割合である）。

次に、表44のスポーツ以外の習い事についてである。「通っている子ども」は、小学5年生で44.0%、中学2年生で26.7%であった。

表43 通塾有無と通う頻度

	合計	ア 学習塾(じゅく)				
		月に数回程	週3日以上	週1～2日	通っていない	分からない・答えたくない
全体	1268	1.8	7.8	31.4	57.4	1.6
小5	584	2.2	8.7	24.1	63.0	1.9
中2	684	1.5	7.0	37.6	52.6	1.3

表44 スポーツクラブ・スポーツの習い事の有無と通う頻度

	合計	イ スポーツクラブ、スポーツの習い事 (サッカー、野球、水泳、武道、ダンスなど)				
		月に数回程	週3日以上	週1～2日	通っていない	分からない・答えたくない
全体	1312	2.7	30.4	22.7	41.9	2.2
小5	631	2.5	34.1	30.4	32.0	1.0
中2	681	2.9	27.0	15.6	51.1	3.4

表 45 スポーツ以外の習い事の有無と通う頻度

	合計	ウ スポーツ以外の習い事 (習字、ピアノ、絵画、プログラミングなど)				
		月に数回程	週 3 日以上	週 1 ～ 2 日	通って いない	分からない・ 答えたくない
全体	1263	4.4	3.6	24.0	65.1	2.9
小 5	600	5.0	5.0	31.7	56.0	2.3
中 2	663	3.9	2.3	17.0	73.3	3.5

4.4.9 家庭や生活についての子どもの経験・意識・・・問 24 エ～ケ

ここでは、「あなたのこれまでの経験を聞かせてください。次のア～ケについて、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください」として聞いたうち、「エ～ケ」の結果について示す。これらは主に、家庭や生活についての子どもの意識や経験について聞いたものである。表 46～表 51 で示す。

表 46「夜遅くまで子どもだけで過ごした」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 1.9% (11 人)、中学 2 年生で 2.8% (20 人) であった。

表 47「お父さんとお母さんが激しいけんかをしていた」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 2.9% (18 人)、中学 2 年生で 5.4% (38 人) であった。

表 48「病気やお年寄り、障がいのある家族を長い間世話しなければならなかった」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 0.3% (2 人)、中学 2 年生で 2.0% (14 人) であった。

表 49「親や家族に代わって、兄弟・姉妹のお世話（ミルクやオムツ替え）やお迎えなどをしなければならなかった」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 2.1% (13 人)、中学 2 年生で 1.7% (12 人) であった。

表 50「親に代わって、日常的に家事（料理やせんたくなど）や労働をしなければならなかった」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 1.9% (12 人)、中学 2 年生で 3.4% (24 人) であった。

表 51「くらすのに必要な家のお金のことが心配になった」に対して「よくあった」と答えた子どもは、小学 5 年生で 4.0% (25 人)、中学 2 年生で 4.4% (31 人) であった。

表 46 「夜おそくまで子どもだけで過ごした」の頻度について

	合計	エ 夜おそくまで子どもだけで過ごした				
		よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	分からない・ 答えたくない
全体	1331	2.4	10.5	15.2	69.6	2.3
小 5	627	1.9	8.1	10.7	76.6	2.7
中 2	704	2.8	12.6	19.2	63.5	1.8

表 47 「お父さんとお母さんがはげしいけんかをしていた」の頻度について

	合計	オ お父さんとお母さんがはげしいけんかをしていた				
		よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	分からない・ 答えたくない
全体	1334	4.2	10.9	18.8	61.8	4.2
小 5	629	2.9	8.4	14.9	68.5	5.2
中 2	705	5.4	13.2	22.3	55.9	3.3

表 48 「病気やお年寄り、障がいのある家族を、
長い間世話しなければならなかった」の頻度について

	合計	カ 病気やお年寄り、障がいのある家族を、 長い間世話しなければならなかった				
		よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	分からない・ 答えたくない
全体	1333	1.2	1.9	6.8	85.8	4.3
小 5	627	0.3	1.8	7.3	83.3	7.3
中 2	706	2.0	2.0	6.4	88.1	1.6

表 49 「親や家族に代わって、兄弟・姉妹のお世話（ミルクやオムツがえ）や
おむかえなどをしなければならなかった」の頻度について

	合計	キ 親や家族に代わって、兄弟・姉妹のお世話（ミルクや オムツがえ）やおむかえなどをしなければならなかった				
		よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	分からない・ 答えたくない
全体	1332	1.9	3.5	5.9	85.8	3.0
小 5	628	2.1	3.0	5.9	84.4	4.6
中 2	704	1.7	3.8	5.8	87.1	1.6

表 50 「親に代わって、日常的に家事（料理やせんたくなど）や労働をしなければならなかった」の頻度について

	合計	ク 親に代わって、日常的に家事(料理やせんたくなど)や労働をしなければならなかった				
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	分からない・答えたくない
全体	1335	2.7	7.1	17.2	70.3	2.8
小 5	630	1.9	6.0	17.6	70.2	4.3
中 2	705	3.4	8.1	16.7	70.4	1.4

表 51 「くらすのに必要な家のお金のことが心配になった」の頻度について

	合計	ケ くらすのに必要な家のお金のことが心配になった				
		よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	分からない・答えたくない
全体	1332	4.2	8.9	13.7	69.5	3.6
小 5	626	4.0	7.3	12.8	70.8	5.1
中 2	706	4.4	10.3	14.6	68.4	2.3

4.4.10 小括

生活リズムについては、起床時間、就寝時間共に、小学5年生より中学2年生の方が遅く起きる子ども、遅く寝る子どもの割合が増える。これは前回調査と同様で、また一般的な傾向である。

食生活については、割合は低いものの、小学5年生の1.5%、中学2年生の5.1%が、朝ごはんをあまり食べないという回答をしている。前回調査では、小学5年生の1.7%、中学2年生の2.7%であったことから、中学校でその割合はやや上がった。

学校外での学習時間について、前回調査では、「まったくしない」の割合が、小学5年生、中学2年生の順に1.7%、2.1%であったが、今回調査では、3.0%、6.6%と割合があがっている。「3時間以上」の割合は、前回調査で小学5年生、中学2年生の順に、3.2%、1.8%であり、今回調査では1.7%、2.2%であったことから、小学5年生においては減少、中学2年生については上昇した。すなわち、全体として勉強をしない割合が増え、一方、中学2年生で長時間勉強する割合も増えており、二極化の様相が見て取れる。全体としてまったくしない子どもが増えていることは注視していく必要もある。

スマホやゲームの時間について、総務省（2022）による2021年度調査の結果によると、小学5年生で平日3時間以上インターネットを利用しているのは44.8%、同じく中学2年生では67.8%にのぼる。本調査では、小学5年生で15.2%、中学2年生で23.2%であり、長時

間利用の傾向は全国平均よりは相当に低い傾向にあった。

家族との会話については、「学校での出来事」を例にすると、前回調査では、父親とは小学5年生、中学2年生の順に「よく話をする」が、32.1%、19.0%であったが、今回調査では、42.8%、36.9%と高い割合であった。母親については同じく前回調査では、63.0%、52.6%、であったが、今回調査では、70.3%、64.8%であり、家族内の子どもとの会話は増えている傾向にある。一方、「まったく話をしない」の割合は前回調査、今回調査ともに一定数おり、家族関係に困難を抱えている子どもがいる実態もみてとれる。

通塾については、前回調査では「通っているかどうか」の2択であり、小学5年生で36.1%、中学2年生で48.2%が塾に通っていた。今回調査では、頻度まで聞いたが、いずれにせよ通っていた子どもは、小学5年生で35.1%、中学2年生で46.1%であった。特に中学2年生での通塾率は、前回調査よりあがっている。

今回の調査では、いわゆる「ヤングケアラー」と呼ばれる、家事や病気気味の家族の世話をするなど、ケア責任を負う子どもの存在について聞いた。「病気やお年寄り、障がいのある家族を長い間世話しなければならなかった」に「よくあった」と答えた子どもは全体で1.2%、「親や家族に代わって、兄弟・姉妹のお世話やおむかえなどをしなければならなかった」に「よくあった」と答えた子どもは全体で1.9%、「親に代わって、日常的に家事や労働をしなければならなかった」に「よくあった」と答えた子どもは全体で2.7%と、ごくわずかではあるが、該当があった。

4.5 高山市と自分のかかわりについて

4.5.1 地域行事への参加について・・・問18

ここでは「あなたは、あなたの住んでいるところで、次のような活動に参加したことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください（いくつでも）」として聞いた結果について述べる。結果を表52に示す。

近所のお祭りへの参加が、全体で82.1%に至るなど、全体として高い割合であった。「どれにも参加したことがない」子どもは、小学5年生で7.5%（前は4.5%）、中学2年生で6.5%（前は3.8%）であった。若干地域の活動等への参加割合は減少した。

表52 地域活動への参加経験

	全体	小5	中2
合計	1361	654	707
ア 近所のお祭り	82.1	79.2	84.7
イ 子ども会や町内会などが開いた 運動会やクリスマス会などの行事	74.5	69.3	79.3
ウ 公園や道路などのそうじ、 ボランティア活動（みんなのために手伝う活動）	39.4	30.3	47.8
エ 消防・防災訓練、ひなん訓練 （安全な場所に移動することの訓練）	20.1	18.8	21.2
オ 児童館、公民館などが開いた 学びの場や教室	18.7	22.8	15.0
カ どれにも参加したことがない	7.0	7.5	6.5
キ その他	0.1	0.2	0.1

4.5.2 高山市への愛着・・・問31、問32、問33

ここでは高山市への愛着と、好きな理由、そうではない理由について述べる。

まず、「あなたは、このまち（高山市や住んでいるところ）が好きですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について表53に示す。「好き」の割合が全体で63.2%、小学5年生では77.7%、中学2年生では50.7%であった。

次に、表53に示した問いで「好き」、「まあまあ好き」と答えた子どもに対し、「1 好き」「2 まあまあ好き」と答えた方にお聞きします。どのようなところが好きですか。あてはまるものをすべて選んでください（いくつでも）」として聞いた結果を、表54に示す。また、そのグラフを図3として示す。小学5年生、中学2年生ともに「自然がたくさんある」の割合が最も高く、85%以上であった。2番目に高い割合だったのは、小学5年生で「友達がたくさんいる」、中学2年生で「水や食べ物がおいしい」、3番目に小学5年生は「水や食べ物がおいしい」、中学2年生は「友達がたくさんいる」であった。小学5年生から中学2年生で割合が半分以下に下がるのは、「遊ぶところがたくさんある」であり、小学5年生で

57.0%、中学2年生で26.6%であった。

次に表53に示した問いで「あまり好きではない」、「好きではない」と答えた子どもに対し、「「3 あまり好きではない」「4 好きではない」と答えた方にお聞きします。どのようになると好きになれそうですか。あてはまるものをすべて選んでください（いくつでも）」として聞いた結果を表55、またそのグラフを図4として示す（回答者数は、75件である点に注意）。特に中学2年生で回答が顕著であったのは、「もっと都会になってほしい」（66.1%）、「遊べる場所を増やしてほしい」（72.9%）、「買い物を便利にしてほしい」（66.1%）であった。

表53 高山市への愛着

	合計	好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
全体	1294	63.2	30.8	4.4	1.5
小5	600	77.7	19.3	2.0	1.0
中2	694	50.7	40.8	6.5	2.0

表54 高山市を好きな理由

		全体	小5	中2
	合計	1211	579	632
1	自然がたくさんある	87.4	87.4	87.5
2	遊ぶところがたくさんある	41.4	57.3	26.7
3	まちがきれい	57.8	58.2	57.4
4	水や食べ物がおいしい	78.4	74.8	81.6
5	あふなくない	44.3	35.6	52.4
6	まわりの人が親切	67.2	67.4	67.1
7	友達がたくさんいる	72.7	77.2	68.7
8	すごいと思うこのまちの歴史や文化がある	48.7	52.5	45.3
9	人が多くてにぎやか	20.9	26.8	15.5
10	買い物が便利	20.6	29.7	12.2
11	分からない	2.2	2.6	1.9
12	その他	2.6	2.8	2.4

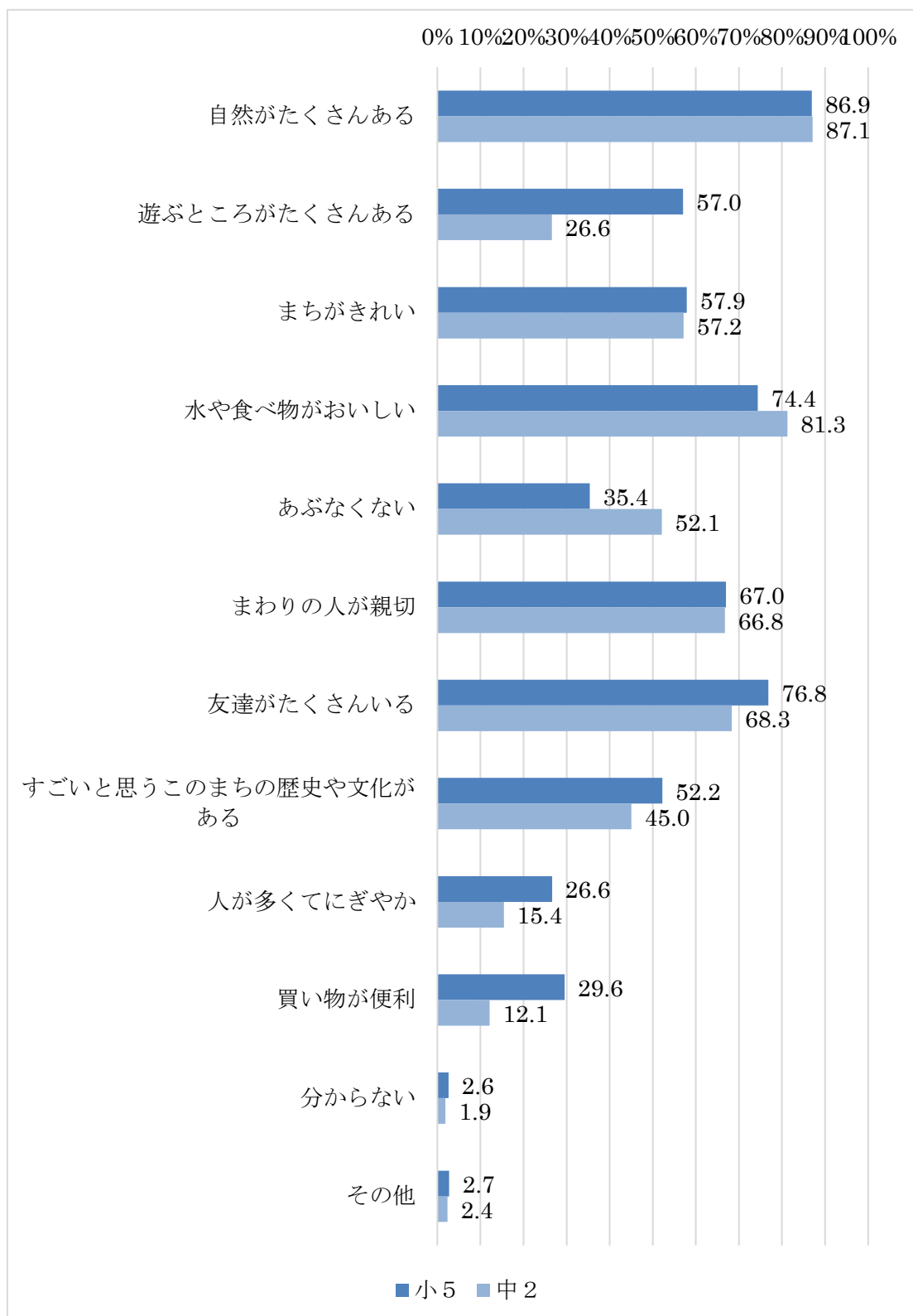


図3 高山市を好きな理由

表 55 高山市がどのようなになると好きになれそうか

		全体	小 5	中 2
	合計	75	17	58
1	もっと都会になってほしい	62.7	47.1	67.2
2	遊べる場所を増やしてほしい	72.0	64.7	74.1
3	きれいなまちにしてほしい	36.0	47.1	32.8
4	バスなど交通を便利にしてほしい	41.3	35.3	43.1
5	防災や防犯など安全なまちにしてほしい	20.0	29.4	17.2
6	やさしく親切な人が増えてほしい	30.7	23.5	32.8
7	友達がたくさんできてほしい	21.3	17.6	22.4
8	自慢できるところを増やしてほしい	36.0	23.5	39.7
9	観光客はあまり来ないでほしい	12.0	11.8	12.1
10	買い物を便利にしてほしい	62.7	47.1	67.2
11	分からない	6.7	5.9	6.9
12	その他	5.3	5.9	5.2

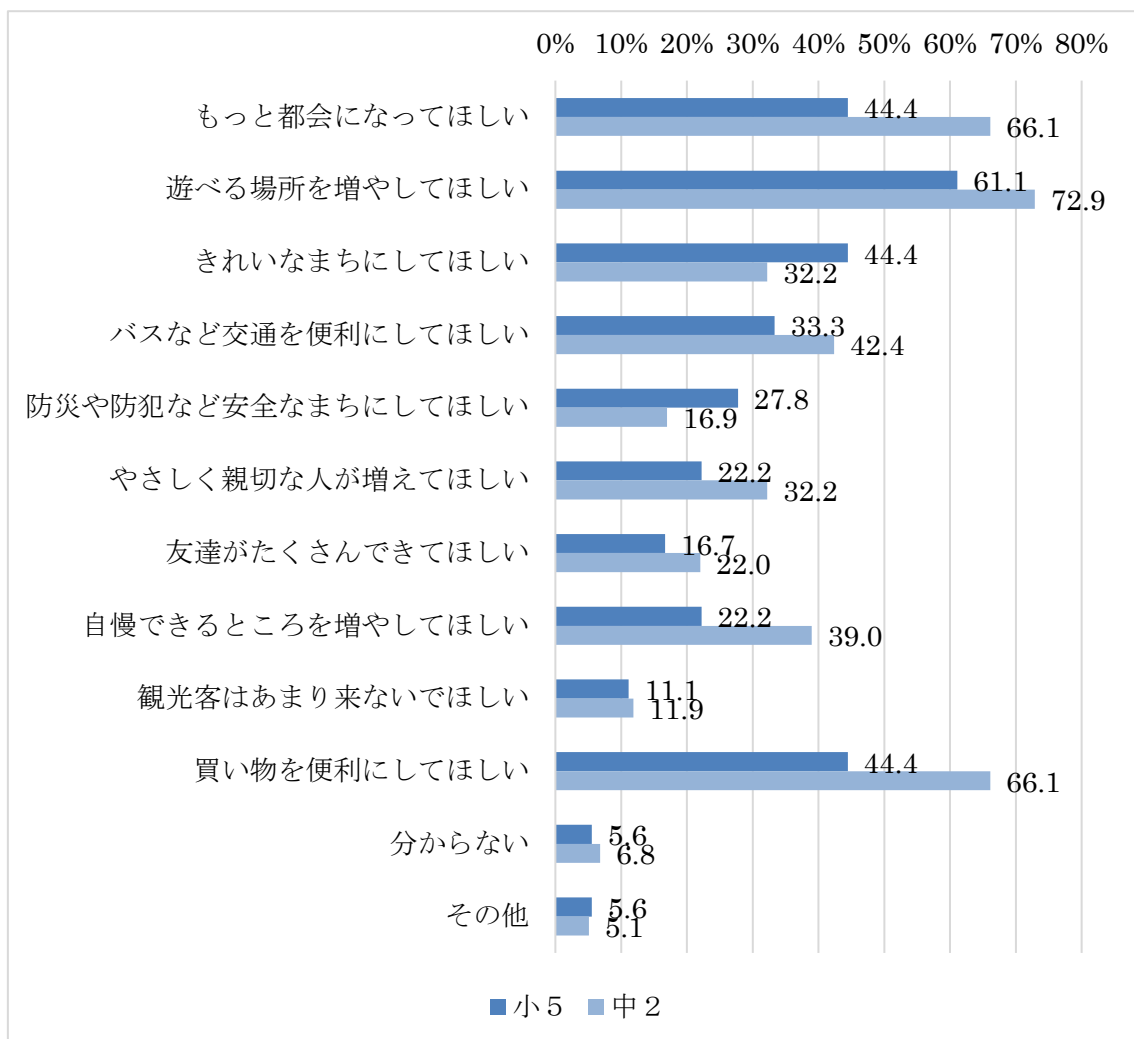


図 4 高山市がどうなると好きになれそうか (n: 小 5=17 人、中 2=58 人)

4.5.3 小括

高山市と自分の関わりについて、地域行事等への参加と、高山市への愛着から述べてきた。

地域行事等への参加については、近所のお祭りへの参加が、全体で 82.1%に至るなど、全体として高い割合であった。しかし、「近所のお祭りへの参加」を見ても、前回調査では、小学 5 年生で 81.6%、中学 2 年生で 86.0%であった一方、今回調査では同じく、79.2%、84.7%と若干低下傾向であった。また、「どれにも参加したことがない」子どもは、小学 5 年生で 7.5%（前回は 4.5%）、中学 2 年生で 6.5%（前回は 3.8%）であった。地域の活動等への参加割合は、高い傾向を維持しているものの、前回調査からは若干減少した。

高山市への愛着について、前回調査では「好き」と答えた子どもは、小学 5 年生で 69.0%、中学 2 年生で 45.6%であった一方、今回調査では、同じく 77.7%、50.7%と、増加した。しかし、中学 2 年生になると、「好き」の割合が下がる傾向は同様であった。好きな理由については前回調査と同じ傾向で、「自然がたくさんある」、「水や食べ物がおいしい」、「友達がたくさんいる」などがあげられ、また「すごいと思うこの町の歴史や文化がある」（前回調査では「自慢できる歴史や文化がある」）については、前回調査で小学 5 年生は 52.3%、中学 2 年生は 37.5%のところ、今回調査では、同じく 52.2%、45.0%であり、中学 2 年生で上昇した。「好きでない」という子どもに聞いた「高山市がどのようになると好きになれるか」という問いについて、「もっと都会になってほしい」、「遊べる場所を増やしてほしい」、「買い物を利用にしてほしい」などがあげられ、これは前回調査と同様の結果であった。

総じて、地域行事への参加の割合が若干低下したものの高い水準を維持しており、また愛着を感じている子どもは前回調査より増加した。「すごいと思う町の歴史や文化がある」についても、中学 2 年生で増加するなど、町への理解と町への誇りを感じている子どもは増加したといえる。

4.6 子どもの希望や悩みについて

4.6.1 嫌なことや困ったことがあるときの相談先・・・問25

ここでは「あなたは、いやなことやこまったことがあるときは、だれかに相談しますか。あてはまるものをすべて選んでください(いくつでも)」として聞いた結果について述べる。表56と図5に結果を示す。

家族や友達、学校の先生に相談する割合が高いことが見て取れる。一方、特に中学2年生では、「インターネットのサイトなどで知り合った直接会ったことのない人」、「誰にも相談できない」、「誰にも相談したくない」の割合が小学5年生に比べて高いことも見て取れる。

表56 嫌なことや困ったことがあるときの相談先

		全体	小5	中2
	合計	1443	686	757
1	お父さんやお母さん	68.4	73.2	64.1
2	兄弟・姉妹	26.5	28.7	24.6
3	おじいさんやおばあさん、しんせきの人	21.4	22.7	20.2
4	友達	62.2	58.3	65.8
5	学校の先生	38.0	42.9	33.7
6	学校の保健室の先生	10.7	10.2	11.1
7	クラブ活動の先生	8.0	3.2	12.4
8	スクールカウンセラー	7.1	7.3	6.9
9	子どもが利用できる電話相談	2.6	4.2	1.2
10	インターネットのサイトなどで 知り合った直接会ったことのない人	3.2	1.5	4.8
11	近所や住んでいるところの人	3.1	4.5	1.8
12	だれにも相談できない	3.3	2.5	4.1
13	だれにも相談したくない	7.1	5.7	8.5
14	分からない・答えたくない	2.9	3.2	2.6
15	その他	1.5	2.5	0.7
16	無回答	8.7	9.2	8.3

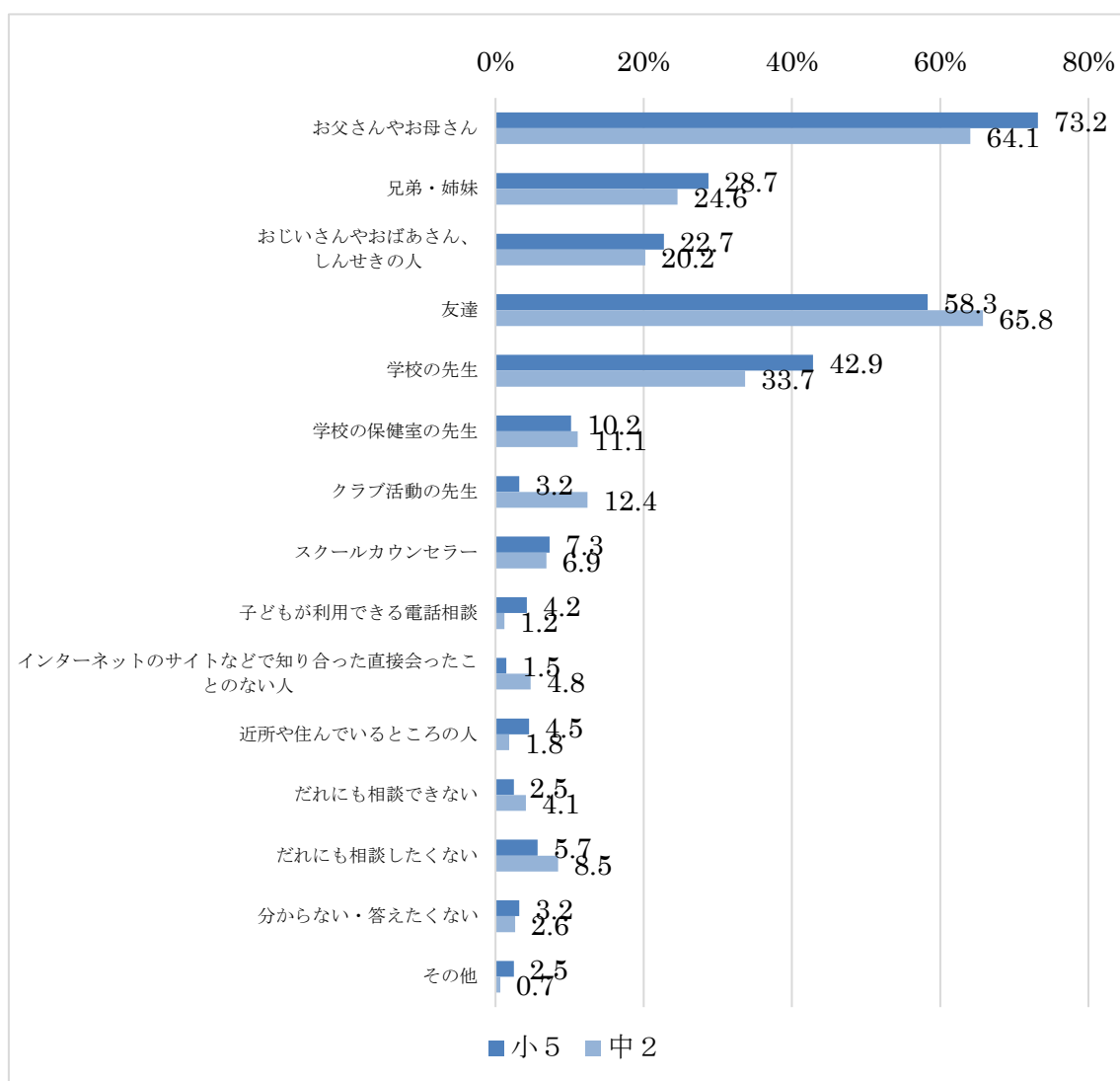


図5 嫌なことや困ったことがあるときの相談先

4.6.2 安心して過ごすことのできる場所・・・問21、問22

ここでは「あなたには、家と学校以外で、安心して過ごすことのできる居場所（児童館、子ども食堂、塾（じゅく）やフリースクールなど）がありますか」として聞いた結果を表57に示す。小学5年生、中学2年生ともに50%前後が、家と学校以外に居場所だと感じる場所を持っていることがわかる。

表57で「ある」と回答した子どもを対象に、「あなたが家と学校以外で、安心して過ごすことのできる場所について、あてはまるものをすべて選んでください（いくつでも）」として聞いた、居場所がどのようなものか聞いた結果を、表58、図6に示す。

表 57 家と学校以外で安心して過ごすことのできる居場所がある子ども

	合計	ある	ない	分からない・ 答えたくない
全体	1349	50.5	36.8	12.7
小 5	639	53.4	32.6	14.1
中 2	710	47.9	40.7	11.4

表 58 家と学校以外で安心して過ごすことのできる居場所 (n=677)

		全体	小 5	中 2
	合計	681	341	340
1	おじいさんやおばあさん、 しんせきの家	66.8	66.9	66.8
2	友達の家	65.1	67.4	62.6
3	学習塾（じゅく）や習い事、 スポーツクラブなどの場所	47.4	49.3	45.6
4	であい塾（じゅく）、 移動であい塾（じゅく）	2.3	3.2	1.5
5	フリースクール （不登校の子どもが学んだり、 友達と過ごせたりする場）	1.5	2.6	0.3
6	放課後児童クラブ	2.8	4.7	0.9
7	児童館	7.3	10.9	3.8
8	図書館、公民館などの施設	32.6	33.7	31.5
9	公園や自然のなかで遊べる場所	40.4	41.1	39.7
10	子ども食堂 （お金を出さなくてもいい、 または、安くごはんを食べさせてくれる場）	2.2	3.2	1.2
11	地域の人がやっている、 寺子屋、サロン、遊びなどの場	4.7	6.2	3.2
12	分からない、答えたくない	1.3	0.9	1.8
13	その他	4.3	4.7	3.8
14	無回答	0.6	0.6	0.6
15	非該当			

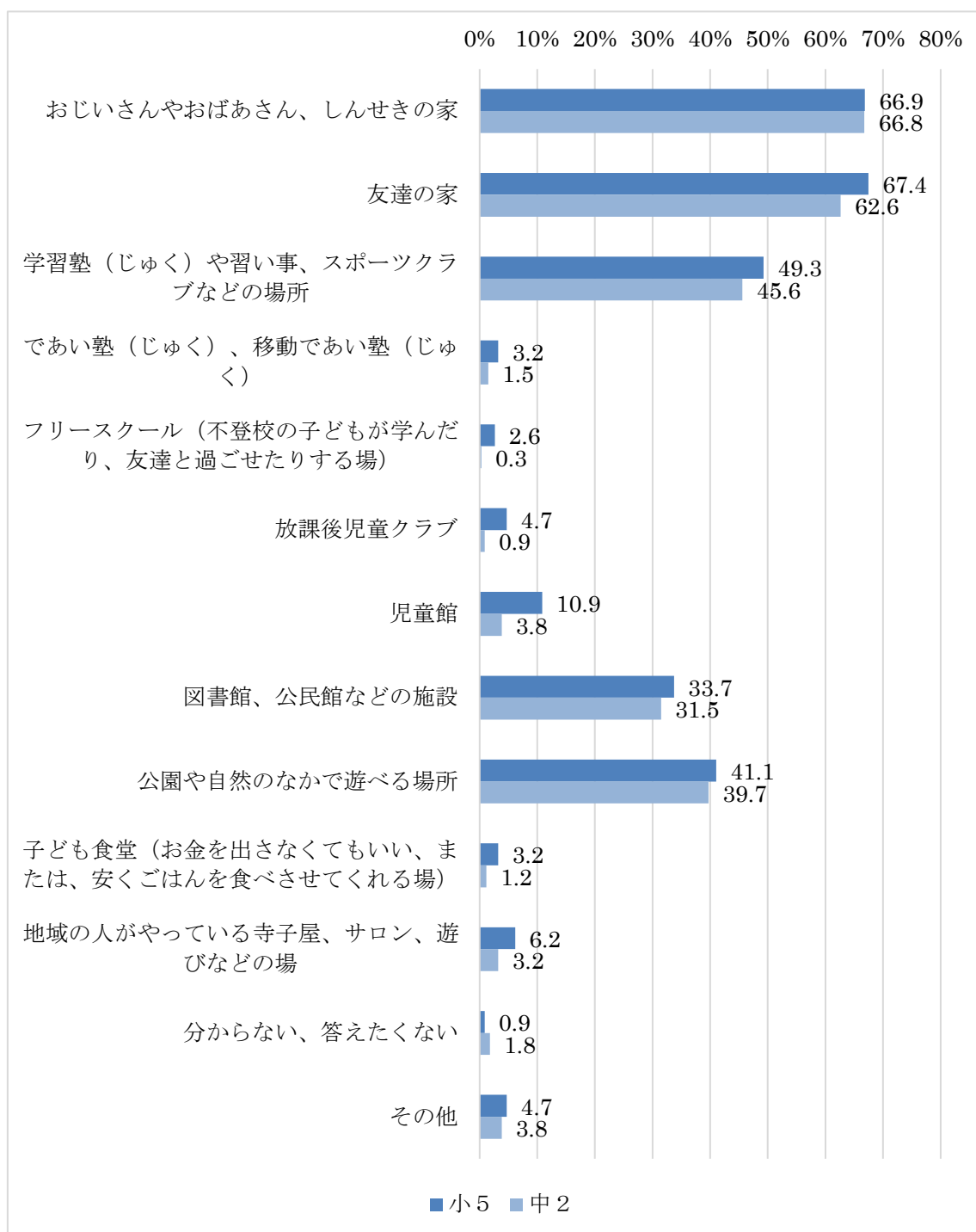


図6 家と学校以外で安心して過ごすことのできる居場所 (n=677)

子どもが居場所だと感じている場所は、親類の家や友達の家、習い事、公共施設、公園が中心であったが、小学5年生で「であい塾」、「フリースクール」、「子ども食堂」、「地域の人がやっている寺子屋、サロン、遊びなどの場」という回答も見られた。

4.6.3 希望や悩み・・・問23

ここでは、あなたの思いや気持ちを聞かせてください。次のア～カについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について、表59～表64に示す。これらの項目は、主に自尊感情尺度を中心にとったものである。「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書」（国立青少年教育振興機構，2018）による「自分は価値のある人間だ」と感じている子どもは、「そうだ」、「まあそうだ」を足して44.9%であることから、高山市の子どもの自尊感情は、高い傾向にあると推察される。

表 59 希望や悩み「頑張ったら、良いことがある」について

	合計	ア 頑張ったら、良いことがある				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1347	51.4	32.7	10.1	4.8	1.0
小5	640	61.7	26.6	8.8	2.2	0.8
中2	707	42.1	38.2	11.3	7.1	1.3

表 60 希望や悩み「自分は価値のある人間だ」について

	合計	イ 自分は価値のある人間だ				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1335	27.5	35.8	20.3	9.1	7.3
小5	632	31.3	34.3	18.2	7.0	9.2
中2	703	24.0	37.1	22.2	11.1	5.5

表 61 希望や悩み「自分の将来が楽しみだ」について

	合計	ウ 自分の将来(しょうらい)が楽しみだ				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1333	43.1	28.7	17.6	8.5	2.1
小5	632	53.8	24.7	13.8	5.2	2.5
中2	701	33.5	32.4	21.0	11.4	1.7

表 62 希望や悩み「自分は家族に大事にされている」について

	合計	エ 自分は家族に大事にされている				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1339	68.6	23.4	4.3	1.4	2.3
小 5	635	74.3	18.4	3.5	2.0	1.7
中 2	704	63.5	27.8	5.0	0.9	2.8

表 63 希望や悩み「不安に感じることは無い」について

	合計	オ 不安を感じることはない				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1333	30.6	27.2	21.2	18.4	2.7
小 5	630	41.3	28.7	14.8	11.6	3.7
中 2	703	21.1	25.7	26.9	24.5	1.8

表 64 希望や悩み「ひとりぼっちと思うことはない」について

	合計	カ ひとりぼっちと思うことはない				
		とても そう思う	どちらかと いえば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1338	41.9	25.2	18.5	11.4	3.0
小 5	634	53.0	22.9	12.6	8.2	3.3
中 2	704	32.0	27.3	23.9	14.2	2.7

4.6.4 嬉しいと感じるとき・・・問 2 6

ここでは、「あなたがうれしいと感じて笑顔になれる場面を教えてください。次のア～クについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について、表 65～72 に示す。また、小学 5 年生について図 7、中学 2 年生について図 8 に示す。

小学 5 年生、中学 2 年生ともに「友達といっしょに、遊んだり楽しいことができたとき」、「勉強が良くできたり、テストで良い点が取れたとき」の割合が高く、それ以外が続く形である。

表 65 嬉しいと感じるとき「自分の頑張りにより、夢や目標がかなったとき」について

	合計	ア 自分の頑張りにより、夢や目標がかなったとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1315	69.7	25.2	2.4	0.8	1.9
小5	616	71.8	21.9	2.8	1.0	2.6
中2	699	68.0	28.0	2.0	0.7	1.3

表 65 嬉しいと感じるとき

「勉強が良くできたり、テストで良い点が取れたとき」について

	合計	イ 勉強が良くできたり、テストで良い点が取れたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1313	72.7	23.4	2.4	0.7	0.9
小5	614	71.5	23.9	3.1	0.5	1.0
中2	699	73.7	22.9	1.7	0.9	0.9

表 65 嬉しいと感じるとき「だれかにありがとうや、すごいと言われたとき」について

	合計	ウ だれかにありがとうや、すごいと言われたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1310	62.8	32.4	2.9	1.0	0.8
小5	613	61.8	32.5	3.9	0.7	1.1
中2	697	63.7	32.4	2.0	1.3	0.6

表 65 嬉しいと感じるとき「家族から大切にされていると感じたとき」について

	合計	エ 家族から大切にされていると感じたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1311	64.7	28.3	3.7	1.0	2.3
小5	614	72.5	21.3	2.9	0.8	2.4
中2	697	57.8	34.4	4.4	1.1	2.2

表 65 嬉しいと感じるとき「だれかの役に立ったり、助けることができたとき」について

	合計	オ だれかの役に立ったり、助けることができたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1307	64.9	29.1	3.7	1.0	1.3
小 5	612	66.0	27.9	3.9	0.5	1.6
中 2	695	63.9	30.1	3.6	1.4	1.0

表 65 嬉しいと感じるとき「だれかにやさしくしたり、親切になれたとき」について

	合計	カ だれかにやさしくしたり、親切になれたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1308	60.5	31.7	4.7	1.3	1.8
小 5	613	63.5	29.7	4.6	0.7	1.6
中 2	695	57.8	33.5	4.9	1.9	1.9

表 65 嬉しいと感じるとき

「友達といっしょに、遊んだり楽しいことができたとき」について

	合計	キ 友達といっしょに、遊んだり楽しいことができたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1312	78.1	18.4	1.4	0.8	1.3
小 5	616	80.8	16.2	1.1	0.6	1.1
中 2	696	75.7	20.3	1.7	0.9	1.4

表 65 嬉しいと感じるとき「自分だけの時間や場所で過ごせたとき」について

	合計	ク 自分だけの時間や場所で過ごせたとき				
		とても うれしい	うれしい	あまり うれしく ない	うれしく ない	分からない・ 答えたくない
全体	1299	62.9	28.4	5.5	1.6	1.5
小 5	606	56.1	32.0	7.3	2.5	2.1
中 2	693	68.8	25.3	4.0	0.9	1.0

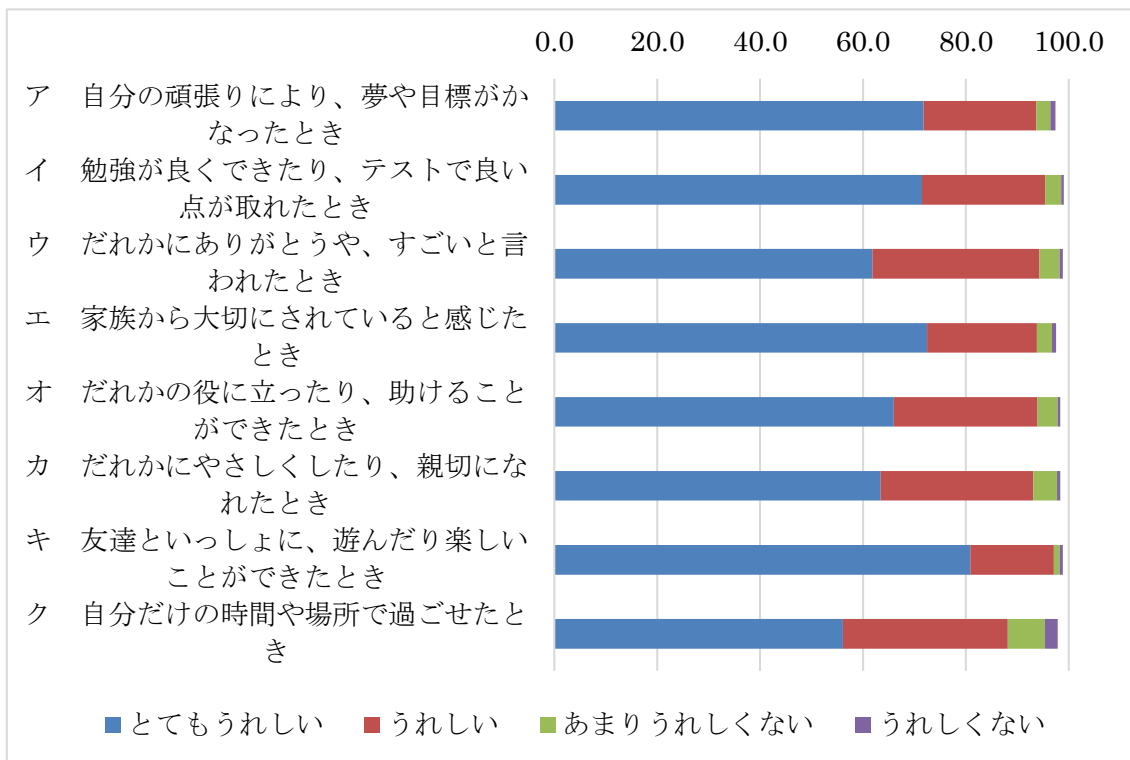


図7 小学5年生「嬉しいと感じるとき」

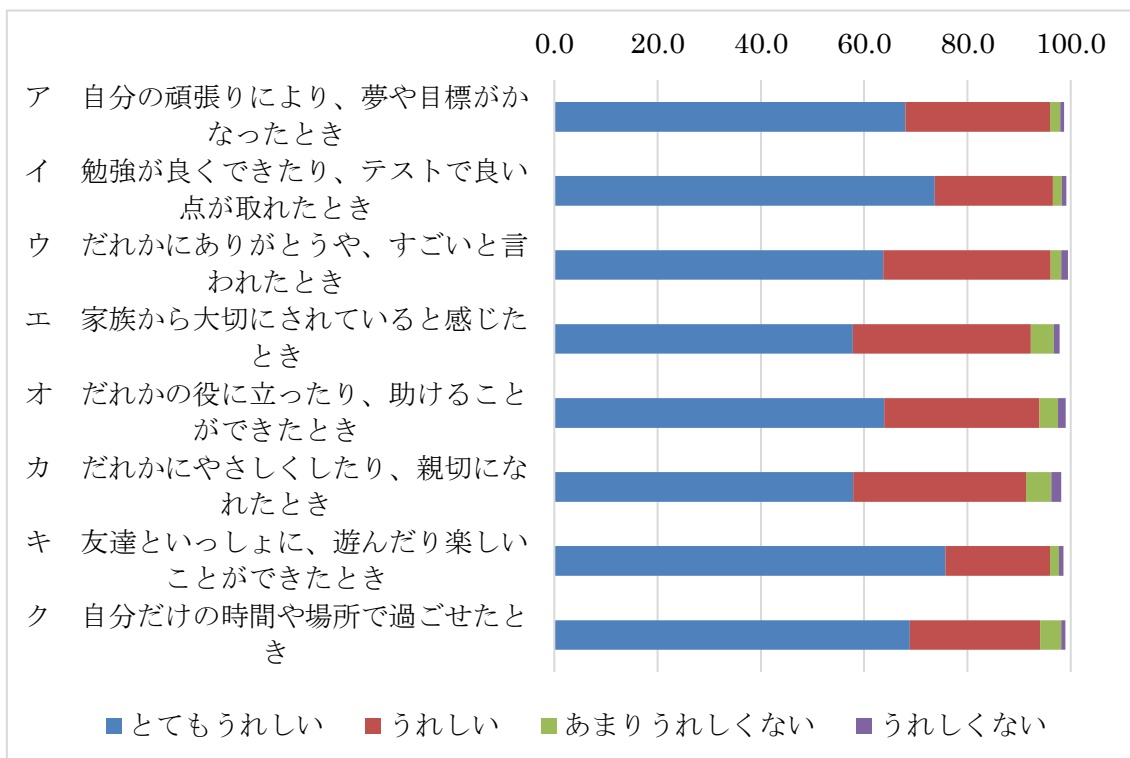


図8 中学2年生「嬉しいと感じるとき」

4.6.5 嬉しいと感じるときを増やすために・・・問27

ここでは、「あなたがうれしいと感じて笑顔になれる場面が増えるために、あなたの周囲はどのようなになっていることが望ましいと思いますか。次のア～クについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた結果について示す。表66～表74に表と、小学5年生についてまとめたグラフを図9、中学2年生についてまとめたグラフを図10として示す。

「とてもあってほしい」で割合が最も高い設問は、先ほどの「嬉しいと感じるとき」と同様、友達についての「友達といっしょに遊んだり、楽しいことができる環境（かんきょう）であってほしい」であった。しかし、2番目に高い項目以降は傾向が異なり、小学5年生で「家族の愛情や絆（きずな）、つながりを感じられる環境（かんきょう）であってほしい」、中学2年生で「自分だけで過ごせる時間や場所が確保できる環境（かんきょう）であってほしい」であった。

表66 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「目標に向かってチャレンジしたり、活躍できる環境であってほしい」

	合計	ア 目標に向かってチャレンジしたり、 活躍(かつやく)できる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1310	55.5	33.4	6.1	2.3	2.7
小5	612	55.7	32.2	6.2	2.6	3.3
中2	698	55.3	34.5	6.0	2.0	2.1

表67 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「勉強を教えてもらえたり、なやみを相談できる環境（かんきょう）であってほしい」

	合計	イ 勉強を教えてもらえたり、 なやみを相談できる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1299	56.8	31.0	6.9	2.7	2.5
小5	605	56.2	30.4	7.1	3.1	3.1
中2	694	57.3	31.6	6.8	2.3	2.0

表 68 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「互いに認め合ったり、感謝を伝えあえる環境であってほしい」

	合計	ウ 互いに認め合ったり、感謝(かんしゃ)を 伝えあえる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1298	59.0	31.2	5.6	2.4	1.8
小5	602	58.8	31.2	5.0	2.3	2.7
中2	696	59.2	31.2	6.2	2.4	1.0

表 69 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「家族の愛情や絆(きずな)、つながりを感じられる環境であってほしい」

	合計	エ 家族の愛情や絆(きずな)、つながりを 感じられる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1297	64.0	25.8	5.0	3.0	2.2
小5	602	67.4	24.6	3.5	2.0	2.5
中2	695	61.0	26.8	6.3	3.9	2.0

表 70 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「社会に役立ったり、気軽に人助けができる環境(かんきょう)であってほしい」

	合計	オ 社会に役立ったり、気軽に人助けができる 環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1297	60.6	29.0	5.7	2.3	2.4
小5	604	62.7	26.8	5.6	2.2	2.6
中2	693	58.7	30.9	5.8	2.5	2.2

表 71 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「相手のことを思いやり、行動に移せる環境（かんきょう）であってほしい」

	合計	カ 相手のことを思いやり、 行動に移せる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1298	62.9	28.8	4.1	1.9	2.3
小 5	602	64.0	28.1	3.5	1.5	3.0
中 2	696	61.9	29.5	4.6	2.3	1.7

表 72 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「友達といっしょに遊んだり、楽しいことができる環境（かんきょう）であってほしい」

	合計	キ 友達といっしょに遊んだり、 楽しいことができる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1299	75.0	19.6	2.1	1.5	1.8
小 5	604	77.6	17.5	1.8	0.8	2.2
中 2	695	72.7	21.3	2.3	2.2	1.6

表 73 嬉しいと感じて笑顔になれる場面が増えるために
「自分だけで過ごせる時間や場所が確保できる環境（かんきょう）であってほしい」

	合計	ク 自分だけで過ごせる時間や場所が 確保できる環境(かんきょう)であってほしい				
		とても あって ほしい	あって ほしい	あまり なくても よい	なくても よい	分からない・ 答えたくない
全体	1287	60.5	29.1	5.6	2.8	2.1
小 5	593	55.3	30.9	7.1	3.5	3.2
中 2	694	64.8	27.5	4.3	2.2	1.2

4.6.6 小括

ここでは、子どもの希望や悩みについてみてきた。

嫌なことや困ったことがあるときの相談先については、父母、兄弟、祖父母など家族と、学校の先生、保健室の先生、クラブ活動（部活動）の先生、スクールカウンセラーなどの学校の教職員、そして友達が大きな割合を占めた。一方、「だれにも相談できない」、「誰にも

相談したくない」という子どもも一定数いる実態が明らかとなった。「誰にも相談できない」の割合は、前回調査で小学5年生、中学2年生ともに4.0%であり、今回調査では順に2.5%、4.1%と小学5年生では低下した。「誰にも相談したくない」については、前回調査で小学5年生が7.2%、中学2年生で8.6%であり、今回調査では同じく、5.7%、8.5%と、小学5年生では低下した。中学2年生で悩みを自分で抱えていたり、相談できない子どもの割合は横ばいである。

家と学校以外で安心して過ごすことのできる居場所については今回の調査で初めて聞いた。「家と学校以外」の居場所について問うものだったが、親戚の家、友達の家、習い事、図書館、公園などの割合が高かった。フリースクールや、子ども食堂も、数%の該当があった。多様な居場所の実態を踏まえて、その子とその子らしく安心していられる居場所が維持されるよう、子どもの声に耳を傾けて整備を継続していくことが求められる。

希望や悩みについては、本論内でも述べたように、高山市の子どもの自尊感情は全国のそれに比べて高い傾向が見て取れた。さらに、自尊感情に関する質問で、それぞれ「とても思う」を選んだ子どもの割合の比較を、以下表4.6に示す。質問内容が前回調査とは若干異なっており、単純な比較は難しい項目もあるが、すべての項目において「とても思う」の割合が上がっていることがわかる。

「嬉しいと感じるとき」、「嬉しいと感じるときを増やすために」について、「嬉しいと感じるとき」については、「勉強が良くできたりテストで良い点がとれたとき」という自己実現につながる部分と、「友達と一緒に遊んだり楽しいことができたとき」という他者との関わりの部分の割合が高かった一方、「誰かの役に立つ」、「誰かに優しくする」という、社会貢献に関わる内容についてはそのほかと比較して割合が低い傾向にあった。しかし、「嬉しいと感じるときを増やすために」では、「社会に役立ったり、気軽に人助けができる環境であってほしい」、「相手のことを思いやり、行動に移せる環境であってほしい」という社会貢献に関する内容の割合は、「目標に向かってチャレンジしたり活躍できる環境であってほしい」、「勉強を教えてもらえたり、悩みを相談できる環境であってほしい」という自己実現に関わる内容より、「とてもあってほしい」の割合が高く、そもそも子どもが、なかなか社会貢献する場がなく、「嬉しい」と感じるできていない可能性もある。「嬉しいと感じるとき」と「嬉しいと感じる時を増やすために」で得られたデータの対比から、子どもたちにどのような場を増やしていくことが必要か検討していくことは重要であると考えられる。

総じて、社会の多様化、子どもの多様化が進んでいく中で、割合が低いものの、悩みが相談できない子どもがいるという実態や、居場所も多様化しているという実態から、全体的な支援のみならず、必要な「個」への支援が求められるということが明らかとなった。自尊感情は全体として高い中、さらに「嬉しい」と感じるときを増やすための施策は、得られた結果の対比、対応からさらに検討が求められるといえる。

表 4.6 自尊感情に関する項目の前回との比較

	小学 5 年生		中学 2 年生	
	前回 (2018)	今回 (2023)	前回 (2018)	今回 (2023)
頑張ったら良いことがある (前回：頑張ればむくわれる)	41.9	61.7	37.7	42.1
自分は価値のある人間だ (前回：自分は価値のある人間だと思う)	22.0	31.3	15.5	24.0
自分の将来が楽しみだ	53.2	53.8	31.2	33.5
自分は家族に大切にされている	68.2	74.3	59.5	63.5
不安を感じることはない	32.6	41.3	20.1	21.1
ひとりぼっちに思うことは無い (中 2：孤独に感じることは無い)	40.0	53.0	34.5	32.0

4.7 子どものキャリア意識について

4.7.1 進学希望・・・問28

ここでは、「あなたは将来（しょうらい）、学業でどこまで進みたいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について述べる。結果は、表74に示す。

「まだわからない・決めていない」という割合が全体としては高いが、中学2年生の段階で、21.7%が「短大・高専・専門学校」、32.4%が「大学またはそれ以上」を希望しており、既に半数の子どもは、高等教育を受ける希望をもっている。

表74 子どもの進路希望

	合計	中学校まで	高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	まだ分からない・決めていない
全体	1305	1.4	22.3	18.9	28.1	29.3
小5	608	2.5	22.4	15.6	23.2	36.3
中2	697	0.4	22.2	21.7	32.4	23.2

4.7.2 将来の夢の有無と内容・・・問29

ここでは「あなたには、夢（なりたい職業、やりたいこと、したいくらしなど）がありますか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた結果について述べる。結果は、表75に示す。

表75 夢（なりたい職業、やりたいこと、したいくらしなど）の有無

	合計	ある	ない	無回答
全体	1304	65.9	34.1	9.6
小5	608	75.7	24.3	11.4
中2	696	57.3	42.7	8.1

4.7.3 将来の夢・・・問30

図9、図10、図11に、表75で示した「あなたには、夢（なりたい職業、やりたいこと、したいくらしなど）がありますか」として聞いた問いで「ある」と答えた子どもに、「あなたの夢（なりたい職業、やりたいこと、したいくらしなど）について、具体的に教えてください」として聞いた問いに対する自由記述について、共起ネットワーク分析を行った図を示す。

分析は、KH Coder 3.0で行った。共起ネットワーク図において、円の大きさは出現回数的大小、色は同じ文章で同時に出てくる頻度が高いと判断された単語群のまとまり（クラスターと呼ぶ）、線はそのつながりを示す（点線の場合は、同じ文章で同時に出てくることも

あるが、頻度が高いと判断されなかった単語同士のつながりである)。例えば、図9において左上に「サッカー」、「バスケ」、「選手」、「プロ」、「野球」とある。「選手」という単語の円が大きいことから、より頻度が高く登場することがわかるが、おそらくそれは「バスケ選手」、「サッカー選手」、「プロ野球選手」とそれぞれ複数の子どもが書いていたことに由来する。

図9が小学5年生のみの記述を対象としたもの、図10が中学2年生のみを対象としたもの、図11が小学5年生と中学2年生をそれぞれカテゴリーに、出現単語の差をみたものである。

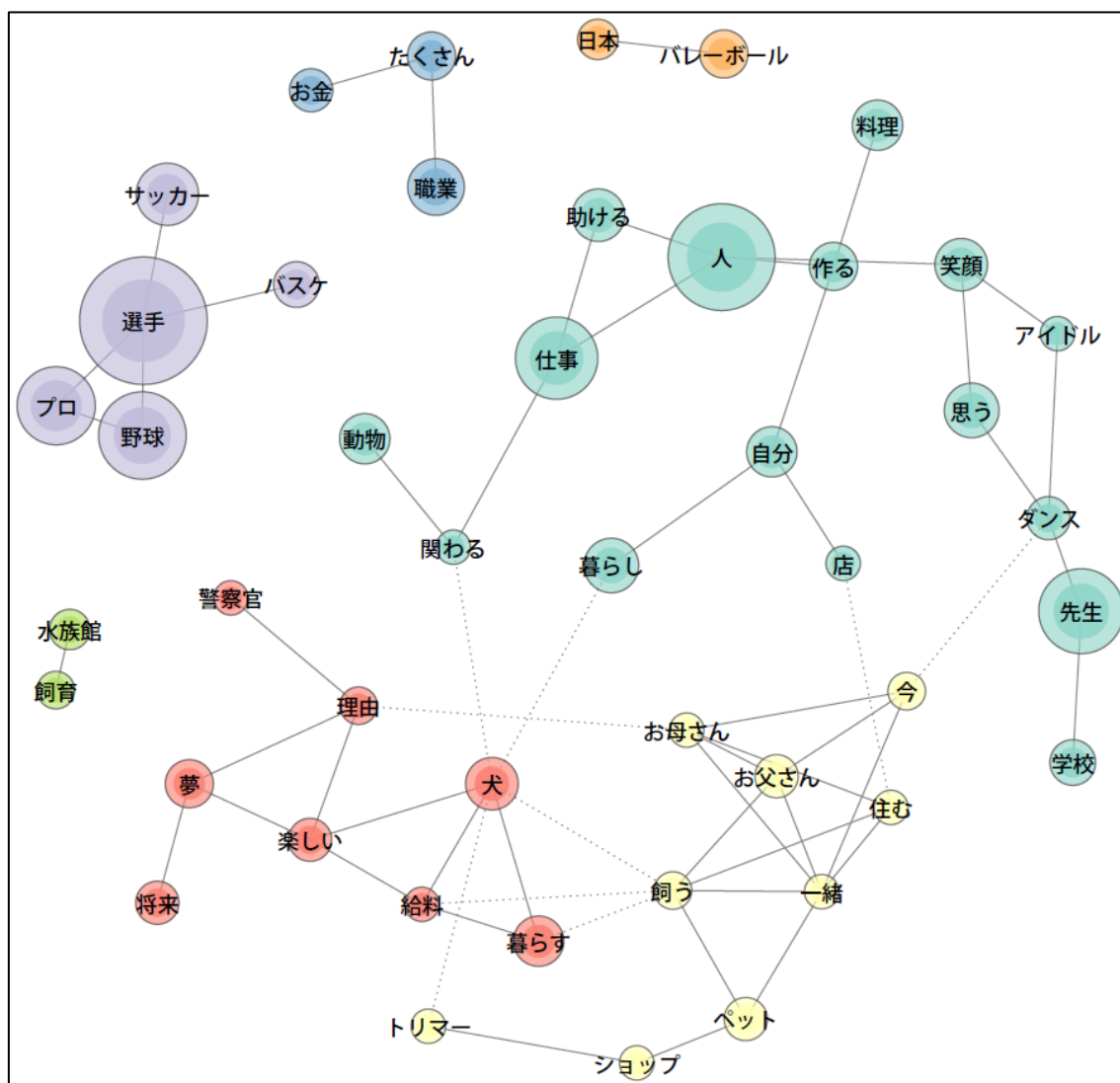


図9 小学5年生：「夢」についての自由記述の共起ネットワーク図

図9は小学5年生の自由記述を分析したものである。

この図から、いくつかのカテゴリーに分かれていることが見て取れる。出現数（円の大きさ）を踏まえると、スポーツ選手に関する記述、「～のような人」になりたいという記述、「先生」をキーワードにした記述が多い傾向にある。その他犬と暮らす、家族と暮らす、お金をもらう、などといった言葉が出現していた。

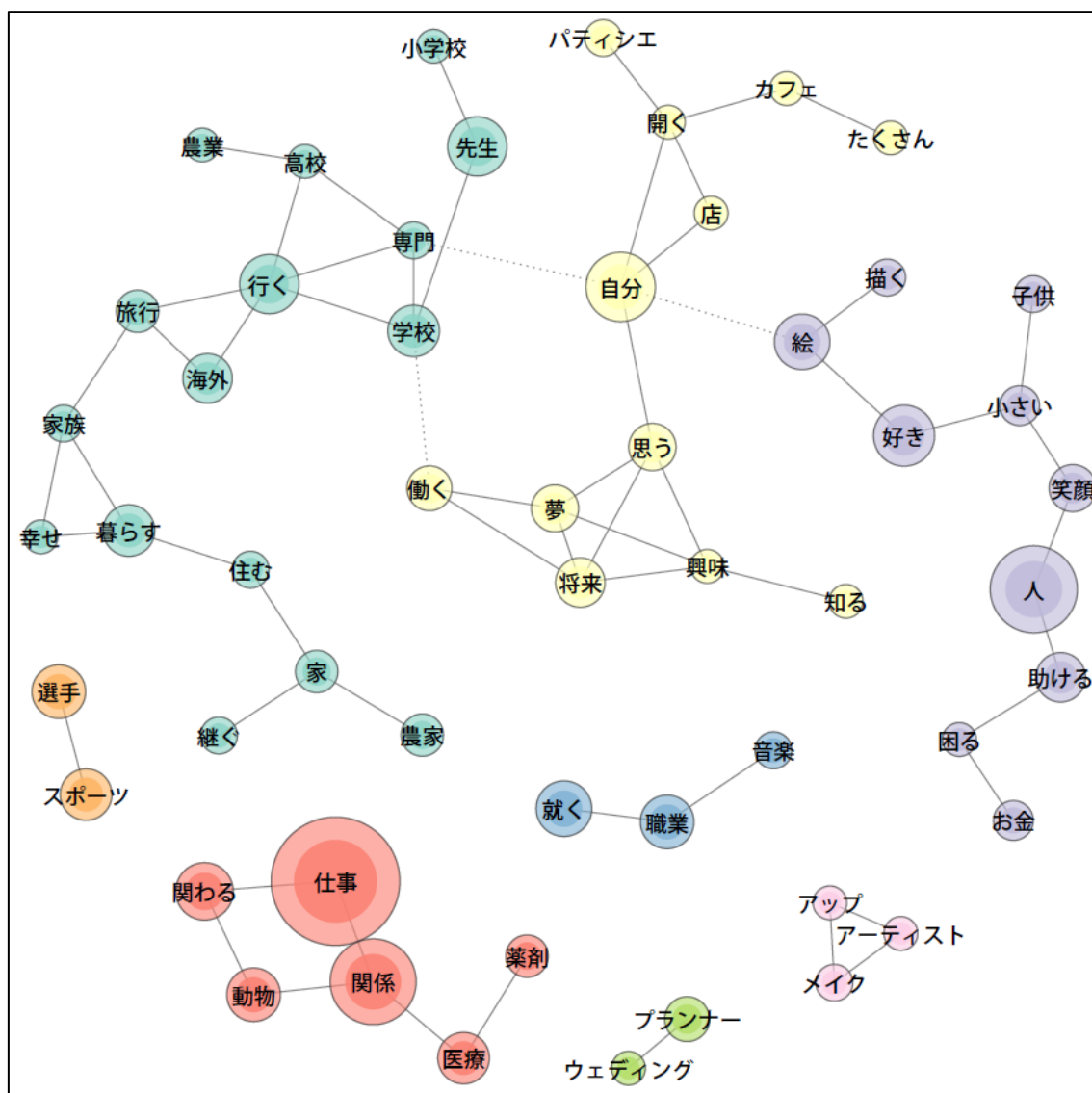


図10 中学2年生：「夢」についての自由記述の共起ネットワーク図

図10は中学2年生の自由記述を分析したものである。

この図から、いくつかのカテゴリーに分かれていることが見て取れる。出現数（円の大きさ）を踏まえると、「～に関係する」、「～に関わる」仕事をしたい、という具体的な仕事のイメージを挙げる子どもが多いことがわかる。また「人を助ける」など、「～する人」、「人

～する」といった表現もいくつかあることがわかる。

そのほかは、具体的な仕事の内容について述べているものがいくつかクラスターとして抽出されている。

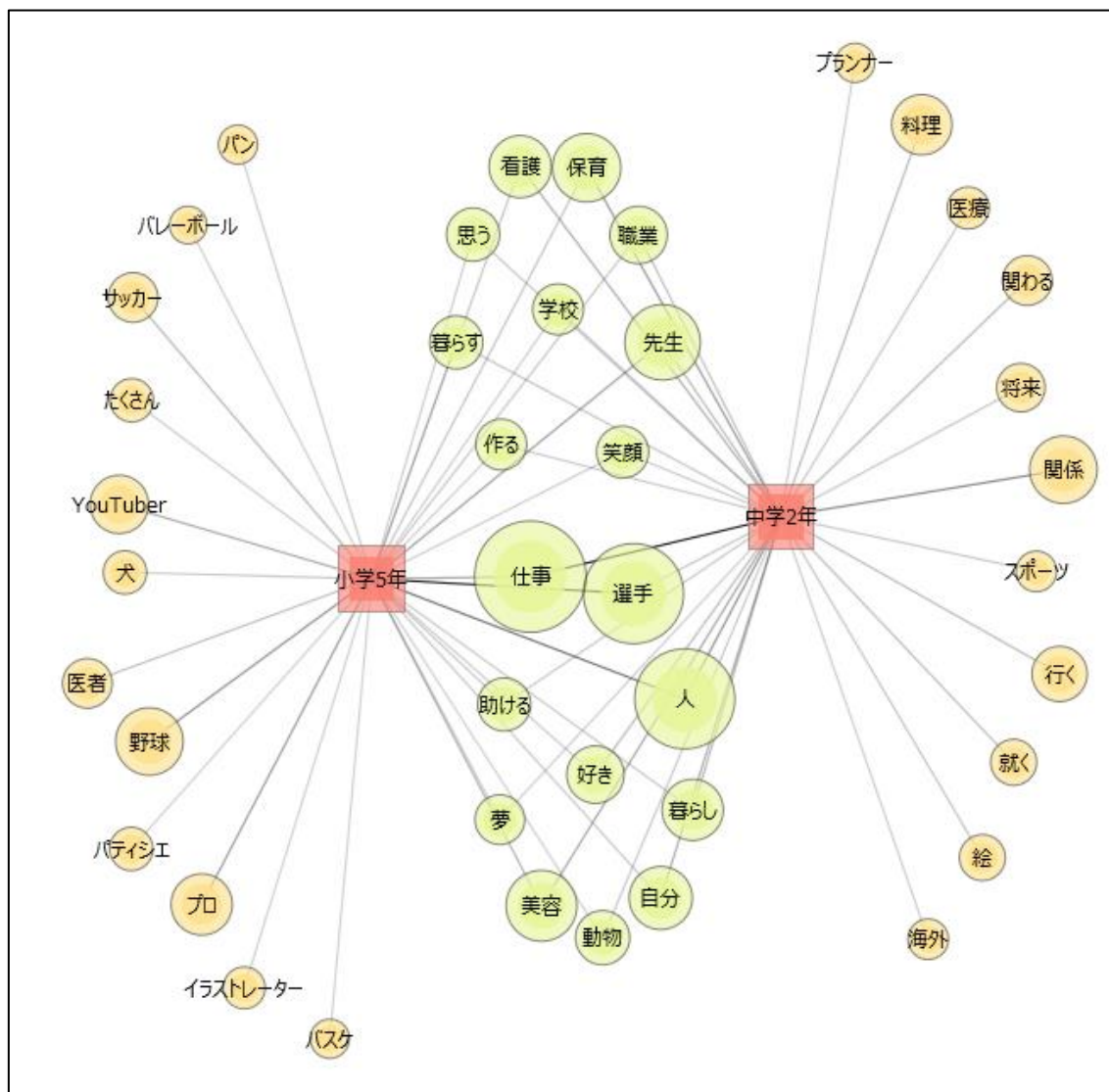


図 11 「夢」についての自由記述の共起ネットワーク図（小学5年生・中学2年生）

図 11 は小学5年生と中学2年生を親カテゴリに、記述内容の共通点、あるいは差を検討した共起ネットワーク図である。

こういった図から「仕事」や「人」が共通のキーワードになっていることがわかる。小学5年生では、なりたい仕事がいくつか出現するが、中学2年生では「関わる」、「関係」、「就く」といった業種や仕事がより具体化した記述が増えている傾向にあることがわかる。

4.7.4 地域と仕事への認識・・・問20

ここでは、「あなたは、あなたの住んでいるところにある仕事（職業）について、どう思っていますか。次のア～オについて、最もあてはまるものをそれぞれ1つ選んでください」として聞いた問いの結果について述べる。結果を、表76～80に示す。

小学5年生は全体的に「わからない・答えたくない」という回答が多いことがわかる。中学2年生は「わからない・答えたくない」という回答が減り、それ以外の割合が増える傾向にある。一方「まったくそう思わない」は、小学5年生から中学2年生の差をみると減少傾向にあり、学年が上がるにつれてポジティブな理解が進んでいる様子が見て取れる。

ただし、表80「将来（しょうらい）は、今住んでいるところで自分でお店を開いたり、農業や自営業、家の仕事を自分が続けたりして働きたい」については傾向が異なり、「まったくそう思わない」の割合が中学2年生で高くなる。

表76 地域と仕事への認識

「住んでいるところには、とても多くの種類の仕事（職業）がある」について

	合計	ア 住んでいるところには、 とても多くの種類の仕事（職業）がある				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1354	24.4	36.5	23.5	4.2	11.4
小5	640	23.8	33.0	21.3	4.7	17.3
中2	714	25.1	39.6	25.5	3.8	6.0

表77 地域と仕事への認識

「住んでいるところには、働きがいのある仕事（職業）がある」について

	合計	イ 住んでいるところには、 働きがいのある仕事（職業）がある				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1345	33.7	35.0	13.2	4.3	13.8
小5	634	29.2	31.4	12.5	5.0	21.9
中2	711	37.7	38.3	13.8	3.7	6.6

表 78 地域と仕事への認識「住んでいるところには給料が多かったり、
自分が働きたいと思う仕事（職業）がある」について

	合計	ウ 住んでいるところには給料が多かったり、 自分が働きたいと思う仕事（職業）がある				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1344	19.6	28.6	23.6	9.7	18.5
小 5	632	19.6	26.3	19.9	11.4	22.8
中 2	712	19.7	30.8	26.8	8.1	14.6

表 79 地域と仕事への認識

「将来（しょうらい）は、住んでいるところの会社や市役所などで働きたい」について

	合計	エ 将来（しょうらい）は、 住んでいるところの会社や市役所などで働きたい				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1341	9.9	22.1	33.8	20.2	13.9
小 5	631	9.8	21.4	28.7	23.0	17.1
中 2	710	10.0	22.8	38.3	17.7	11.1

表 80 地域と仕事への認識「将来（しょうらい）は、今住んでいるところで自分で
お店を開いたり、農業や自営業、家の仕事を自分が続けたりして働きたい」について

	合計	オ 将来（しょうらい）は、今住んでいるところで 自分でお店を開いたり、農業や自営業、家の仕事を 自分が続けたりして働きたい				
		そう思う	少し そう思う	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	分からない・ 答えたくない
全体	1340	12.6	18.5	32.7	22.8	13.4
小 5	629	17.3	24.2	24.0	18.9	15.6
中 2	711	8.4	13.5	40.4	26.3	11.4

4.7.5 定住・Uターン希望・・・問34

ここでは、「あなたは、将来（しょうらい）もこのまち（高山市や住んでいるところ）に住みたいですか。あてはまるものを1つ選んでください」として聞いた問いの結果について述べる。結果は、表 81 に示す。

「住み続けたい」という子どもは、中学2年生になるにつれて減少する。一方で「一度ま

ちを出て、また帰ってきたい」の割合が増加する。「住み続けたい」と「一度まちを出て、また帰ってきたい」を足し合わせると、小学5年生で67.4%、中学2年生で60.0%である。「まだ決めていない」という子どもも、小学5年生で26.8%、中学2年生で28.1%である。

表 81 定住・Uターン希望

	全体	小 5	中 2
合計	1284	596	688
住み続けたい	26.4	35.4	18.6
住み続けたくない	7.8	4.2	10.9
一度まちを出て、また帰ってきたい	37.1	32.0	41.4
まだ決めていない	27.5	26.8	28.1
その他	1.2	1.5	1.0
無回答			

4.7.6 小括

ここでは、子どものキャリア意識についてみてきた。

進路希望について、前回調査と聞き方を変えているため、比較が難しいが、前回調査では「大学まで」または「大学院まで」を選んだ中学2年生は、合計で29.3%、今回調査で「大学またはそれ以上」を選んだ中学2年生は32.4%と、進路希望が若干高学歴化していることが見て取れた。高等教育はユニバーサル化が進んでおり、高山市の子どもの進路希望も、一層高等教育にアクセスを希望する傾向が見て取れる。このような傾向は全国的にも同様であり、地域の維持という側面からは、一層Uターン施策の充実や、高山市への理解を深めてもらう郷土教育の充実が求められていくともいえる。

将来の夢については、小学5年生、中学2年生で傾向が異なり、中学2年生では「～に係る」、「～に関わる」仕事をしたい、というイメージが少しずつ形成されてきていることがわかる。キャリア発達の側面から、自分の仕事の分野を少しずつ考えていっている実態が見て取れる。一方「暮らし方」についてはあまり単語が抽出されず、将来を仕事の側面からとらえている子どもが多い傾向がみてとれた。

地域と仕事への認識については、小学5年生では「わからない・答えたくない」の割合が多いが、中学2年生でその割合は減少する。高山市にある仕事への理解は、学年が上がるにつれて一定程度進む一方、「自分が働きたいと思う仕事がある」に「そう思う」と答えた子どもは、高山市にある仕事への理解に比して割合が下がり、「将来は住んでいるところの会社や市役所などで働きたい」になるとさらに「そう思う」の割合が下がる。

実際、定住・Uターン希望については、「住み続けたい」の割合は中学2年生で下がり、飛騨高山学会での報告（別添）の通り、これは仕事への理解等と関係があるものである。

総じて、高山市でも高等教育に進学したいと考える子どもの割合は前回調査に比して増加しており、人口の維持という観点からは、Uターン施策がますます重要になっていくといえる。そういった中で、地域の仕事の理解がさらに進んだり、その中で携わりたいと思う仕事が増えたりしていくことも重要である。

5 総括

本報告書では、アンケート結果の内容を「学校での生活について」、「家庭や生活について」、「高山市と自分のかかわりについて」、「子どもの希望や悩みについて」、「子どものキャリア意識について」に分けて集計、検討を行った。

前回調査との比較を小括等でしながら検討してきたが、多くの結果でポジティブな回答が増えていた。学校での生活について「楽しみ」という回答が様々な項目において増えていた。家庭での生活でも、親との会話が増えていた。高山市への愛着もさらに高くなっており、「すごいと思う町の歴史や文化がある」と思っている中学2年生も増加した。自尊感情も全体的に高く、前回調査と比較してみても自尊感情が高い子どもが増えている。進学希望もより高等教育に向かう傾向も見取れた。

一方で、課題や本報告で新たに明らかにできたこともいくつかあった。地域行事への参加の割合は前回に比して低下しており、「どれにも参加したことがない」子どもの割合も増加した。新型コロナウイルス感染症の影響もあると思われるが、子どもと地域のつながりの希薄化が懸念される。「嬉しいと感じるとき」について、自己実現や他者との関わりから喜びを感じる子どもが多い一方、社会貢献で喜びを感じる子どもは、確かに高いものの他と比べて割合に差があった。しかし、「嬉しいと感じるときを増やす」ためには、社会貢献する場を求めている実態も垣間見え、子どもが活躍できる場を作ることも今後の課題である。

そしてまた、子どもの多様化への対応や、困難な状態への対応も課題である。「個」の困難を本調査では実態として明らかにすることができた。割合としては高くないものの、授業を理解できていない子どもが一定数いること、いじめられた経験、不登校の経験がある子どもがわずかにいること、ヤングケアラーの存在などはその例である。また、居場所も多様化している。子どもの多様化は、学校という枠組みを超えて、社会で子どもを育てていく施策を充実させていく必要が出てくる。不登校や居場所の課題や、ヤングケアラーの存在などは、社会福祉的側面からのアプローチも不可欠といえる。

総じて、高山市の子どもの実態は明るく、前回調査と比してもポジティブな結果を多く得られた。引き続き施策充実を図りつつ、変化する社会に対応し、困難を抱えている子どもにも寄り添った施策の展開が求められる。

6 引用・参考文献

- ・ 国立青少年教育振興機構（2018）高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書.
- ・ 笹川スポーツ財団（2017）子ども・青少年のスポーツライフデータ 2017.
- ・ 総務省（2022）令和3年度青少年のインターネット利用環境実態調査調査結果.
- ・ 西山里利・峯村恒平（2019）高山市における子育て環境に関する現状と課題 研究成果報告書，学校法人目白学園・一般財団法人飛騨高山大学連携センター.
- ・ 文部科学省（2023）令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について.
- ・ 労働政策研究・研修機構（2016）UJI ターンの促進・支援と地方の活性化―若年層の地域移動に関する調査結果―.

研究成果報告書（第 2 分冊）

2023 年度 子ども（小学 5 年生・中学 2 年生）向けアンケート調査成果報告書

発行年月 2024 年 2 月 29 日

著 者 峯村恒平（目白大学人間学部児童教育学科）

西山里利（目白大学人間学部子ども学科）

発 行 一般社団法人 飛騨高山大学連携センター／目白大学

〒506-0032 岐阜県高山市千島町 900-1(飛騨・世界生活文化センター内)

電話：0577-57-5366 ファクス：0577-57-5377

E メール：hidatakayama@renkei-center.jp

〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1

TEL (03) 5996-3152／FAX (03) 5996-3163